

>> sea



>> people



>> life



うみ・ひと・暮らしフォーラム



2016 in 静岡

●自分の想いを自分のコトバで 一地域とわたしたち一

●平成28年8月27日(土)～28日(日) 静岡県男女共同参画センター あざれあ

**【主催】** 一般財団法人 東京水産振興会 **【共催】** うみ・ひと・暮らしフォーラム

**【後援】** 静岡県、静岡県漁業協同組合連合会、国立研究開発法人水産研究・教育機構 水産大学校、東海大学



## ●自分の想いを自分のコトバでー地域とわたしたちー

### ごあいさつ

うみ・ひと・暮らしフォーラムと東京水産振興会は、活動の実践者である女性グループが一堂に会して情報や意見を交換し合う場として、これまで様々な地域でシンポジウムを開催してきました。

今年は「自分の想いを自分のコトバでー地域とわたしたちー」というテーマです。「一步踏み出した、わたしたち」をテーマにした昨年のシンポジウムを経て、「もう一步踏み出したよ」あるいは「踏み出そうかなと思っているよ」という人たちが、今後、自分たちの目指す姿、目指すものは何かということ自分の言葉で発信してみようというのが今年のテーマです。何かやっていく、かなえていく、踏み出していくための言葉を皆さんそれぞれに探してもらいたいと思います。

主役は皆さん方です。楽しいシンポジウムにしましょう。

うみ・ひと・暮らしフォーラム (副島 久美)

### 主催者挨拶

#### ●一般財団法人 東京水産振興会 振興部部長 西本 真一郎

私ども東京水産振興会は、水産業の発展に寄与することを目的として全国の主に水産関係者の皆さまを対象に、水産振興誌による水産情報の発信やシンポジウムの開催などの普及啓発事業を行っている財団です。そのほかに水産に関する調査研究事業やさかな食育活動などの事業も行っています。

普及啓発事業の中に漁村女性グループ活動支援事業があります。そのなかでこのシンポジウムを漁村地域を活性化する重要な活動として位置づけています。

本日は、各地域で活躍されている方々のお話をお聞かせいただき、その後、ご参加いただいた全国の女性グループの皆さまの間で意見交換と交流をしていただきます。これらを是非、皆様の活動の次のステップに役立てていただき、価値のあるシンポジウムにしていきたいと思います。

# 参加グループ及び参加者

参加グループ			
静岡県	小川漁業協同組合	福岡県	宗像漁業協同組合女性部岬のね〜ちゃん
静岡県	大井川港漁業協同組合女性部	佐賀県	合同会社佐賀市漁村女性の会
静岡県	南駿河湾漁業協同組合御前崎本所女性部	佐賀県	佐賀県有明海漁業協同組合佐賀市支所女性部
静岡県	由比港漁業協同組合女性部	長崎県	上対馬町婦人連絡会
静岡県	浜名っ娘クラブ	長崎県	ももたろう
宮城県	宮城県漁業協同組合七ヶ浜支所女性部吉田浜分会	大分県	合同会社漁村女性グループめばる
神奈川県	神奈川県漁協女性部連絡協議会	その他の参加者・参加機関	
石川県	輪島・海美味工房	宮城県漁業協同組合	
三重県	三重県漁協女性部連合会	静岡県経済産業部水産局水産振興課	
三重県	三重県漁村女性アドバイザー	静岡県水産技術研究所	
和歌山県	和歌山南漁業協同組合女性部（湊浦支所）	静岡県漁業協同組合連合会	
和歌山県	加宝ヤキッチン（加太漁業協同組合）	富士養鱒漁業協同組合	
岡山県	邦美丸（胸上漁協女性部）	JA静岡市	
岡山県	しおかぜ	東海大学	
山口県	山口県漁業協同組合秋穂支所女性部	静岡大学	
山口県	山口県漁業協同組合安下庄支店女性部	全国漁業協同組合連合会漁政部	
山口県	山口県漁業協同組合藤曲浦支店女性部	東京海洋大学	
山口県	株式会社三見シーマザーズ	三重県農林水産部水産経営課	
高知県	上ノ加江漁業協同組合女性部	JF和歌山女性連事務局	
高知県	漁家民宿「海生丸」	国立研究開発法人水産研究・教育機構水産大学校	
高知県	漁家民宿「みや丸」	中土佐町役場水産商工課（高知県）	
高知県	すくも湾漁業協同組合柏島加工クラブ	上対馬公民館（長崎県）	
高知県	土佐ひめいち	株式会社ティーアールアイ	
高知県	満天クラブ	漁港漁場漁村総合研究所	

## プログラム

8月27日（土）	■ 試食会		
	■ 基調講演	アグリロード美和（静岡県）	海野 フミ子 氏
	■ みんなでトーク	コメンテーター 和田島漁協女性部（徳島県） 静岡県漁業協同組合連合会（静岡県） 鹿児島県水産技術開発センター（鹿児島県）	鳴滝 貴美子 氏 川口 照恵 氏 奥原 誠 氏
8月28日（日）	■ もっともっとトーク	前日に話し足りなかったことをざっくばらんにトーク	

## 自分の想いを自分のコトバで

## ー地域とわたしたちー

みなさん、こんにちは。うみ・ひと・くらしフォーラムです。去年に引き続きまた再会できましたねという方もいらっしゃるし、今回初めて参加していただいた方のお顔もたくさん見えます。本当に今日はありがとうございます。

いつもつみ・ひと・くらしフォーラムは水産大学の三木、副島、そして東海大の関の三人でやっていますけれども、今日は残念ながら所用がありまして三木が欠席しております。いつもは三本の矢ということで三本集まれば折れないわけですが、二本の矢なので折れてしまうかもしれないと思っているのですが、よくよく考えたらこの会場にいる皆さんが一つの束になって作り上げるシンポジウムですので、これは絶対折れないだろうと思って今日は頑張りたいと思います。

趣旨説明ですが、去年は「一歩踏み出した、わたしたち」ということでシンポジウムをやりました。いろいろいい発言があったのですが、その中で一歩踏み出した、あるいは踏み出そうという心構えができたというふうなお話も聞くことができております。

今年は「自分の想いを自分のコトバでー地域とわたしたちー」というテーマに致しました。「もつ一歩踏み出したよ」あるいは「踏み出そうかな」と思っているよ」という人たちが今後自分たちの目指す姿、目指すものは何かということをも自分の言葉で発信してみようというのが今年のテーマです。何かやっていく、かなえていくためには言葉にして表に発信していけないといけません。踏み出してかなえていくための言葉を皆さんそれぞれに探してもらいたいというのが今年の趣旨になっています。

ですので、皆さんからたくさん言葉が出てくるような会にしたいと思います。主役は皆さん方です。私たちは交通整理をするだけです、存分に自分の想いを発言してすっきりして帰っていただけると良いと思います。また、久しぶりに再会する人、初めて会う人、いろいろいらっしやると思います。多くの方々と言葉を交わせば、そこからまた何か新しいことが生まれてくるかもしれません。そんな期待を持って楽しいシンポジウムにしたいと思います。よろしくお願ひします。





# うみ・ひと・くらしフォーラム 年次報告 (2015年9月～2016年8月)



## ● うみ・ひと・くらしシンポジウム

大分	2008年	漁村女性グループにおける活動状況と抱える課題
萩	2009年	私たちに合った売り方を考えてみよう
高知	2010年	くらしの中の宝物さがし - 私たちの地域でなにができるか -
金沢	2011年	ネットワークで広げるこれからの活動
佐賀	2012年	漁村女子のココロエ - 心ときめく商品づくりに必要なこと -
東京	2013年	わたしたちに今、できること - うみ・ひと・くらしを考える -
鹿児島	2014年	地域に根ざした魚食と私たちの活動
下関	2015年	一步踏み出した、わたしたち
静岡	2016年	自分の想いを自分のコトバで - 地域とわたしたち -

## ● 地域ミニ・シンポジウム

大分	2010年	売れる商品作り&グループ経営の会計と税務
茨城	2010年	周りの仲間と情報交換しよう - あなたのひとことが大きなヒントに -
高知	2011年	漁村起業グループを ネットワークでつないでいこう
萩	2012年	商品開発と販路を見直してみよう
八丈島	2012年	漁業・農業女性グループ活動の 実態調査・グループとの意見交換会
対馬	2014年	何かやりたい!「思い」から「実践」へ… 一步前に進みませんか?
大分	2016年	商品力の高め方 - 地域の宝を活かし磨く
五島	2016年	地域の女性グループ活動から 地域活性化を考える



## ● 漁村の女性たちによる海の恵フェア (東京でのイベント販売)

2015年4月、6月、12月  
2016年4月 の合計4回



## ● 出版物



2015年 9月 Vol.4  
2015年 11月 Vol.5  
2016年 4月 Vol.6  
2016年 8月 Vol.7  
の4回

2016年6月▶  
うみ・ひと・くらし  
シンポジウム2015  
in 下関 報告書



## ● 学生(若者)の地域への働きかけ (2015～2016年五島ヒアリング調査)

- ・ 漁家出身の水産大学生が4年間、うみ・ひと・くらしシンポジウムを手伝うなかで女性の力に気づき、出身漁村に働きかけていくことを決意
- ・ 後輩に活動をバトンタッチ



これからも年次報告をしていきます

漁村女性グループが手作りする商品  
それは 目の前にある輝くうみとあったかいひとたちに育まれて  
くらしを明るく彩る そんな商品です

おもわずほっこりした気持ちになれる  
うみ・ひと・くらし試食会で  
うみと ひとと くらしをゆっくり楽しんでみませんか？



### 合同会社漁村女性グループめばる (大分県佐伯市)

#### ごまだしとバゲット

郷土料理、ごまだしうどんの素を調味料として売り出しました。  
今日は、パンにつけて食べる、オリーブオイルと少しのニンニクと  
ごまだしを混ぜたものを作って持ってきました。



### 土佐ひめいち (高知県宿毛市)

#### きびなごのおから寿司 ゆず

おからに特産の土佐ショウガをたっぷり刻んで、焼きサバを入れ、  
甘酸っぱく仕上げ、酢でしめたキビナゴをくると巻いて、  
四万十市の柚子をしぼった、おから寿司を持ってまいりました。



### 三重県漁協女性部連合会 (三重県津市)

#### サメのたれ、アカモク

今日お持ちしたのは、サメに味付けして天日干したサメのたれ、  
そして菅島(すがしま)の若い方たちがいままでまったく  
利用価値のなかった海藻を加工したアカモクです。



### 輪島・海美味工房 (石川県輪島市)

#### めぎすハンバーグ

メギスのハンバーグを作ってきました。  
ツルモという海藻を入れました。まだまだ知名度の低い魚ですが、  
フライにしても、いろいろな食べ方をしてもおいしいです。





**由比港漁業協同組合女性部**  
(静岡県静岡市)

**桜えびかき揚げ**

静岡にしかない、それも駿河湾にしかないという桜えびです。  
今日は定番のかき揚げを持ってきました。  
えびそのものだけを使って揚げてあります。味わっていただきます。



**南駿河湾漁業協同組合御前崎本所女性部**  
(静岡県御前崎市)

**がわ**

がわは見た目も悪く、好き嫌いがはっきり分かれる  
冷たいお味噌汁という感じです。  
元々が漁師の方が船の上で作って食べる男料理、  
暑いところで冷たい氷の入ったお味噌汁を食べる、というものです。



**小川漁業協同組合**  
(静岡県焼津市)

**さば粕漬**

小川漁港で水揚げ量がすごく多いサバを使った、  
今回は粕漬を作ったので持ってきました。  
船上で活け締めしたマサバ、酒粕と味噌、  
地元のものを使って作りました。食べてみてください。



**和田島漁協女性部**  
(徳島県小松島市)

**和田島ちりめん**

水揚げから加工までを一貫して行っています。  
今日、皆様に召しあがっていただくため持ってきたちりめんは、  
うちの主人と息子が漁に出まして、私が加工したものです。



# 海野フミ子氏

アグリロード美和 代表（静岡県）



司会進行：副島久実

J A静岡市女性部販売所であるアグリロード美和を立ち上げ、農産物や加工品の販売、生産者と消費者による交流活動を行っている。平成十七年度にJ A静岡市で初の女性理事となっている。

## 本当に女性が頑張ってきた直売所

みなさん、こんにちは。遠くから静岡においでくださいます。今日は世界に誇れる富士山が見えなくてとても残念でしたね。みなさんに素晴らしい富士山を見ていただきたいと思いましたが、私としても本当に残念です。

他に静岡で誇れるものもないですけれども、一つあるのです。それはアグリロード美和です。少し有名になってまいりました。何が有名になってきたかというと、女性が運営して、お金のことも保健所のいろいろな問題も全て女性で解決するという女性が立ち上げた直売所です。みなさんの地区にも農協が経営している何とか自慢市とかいろいろな名前を付けた大きな直売所があると思います。二十年になりますけれども、そういうものとは全く違つ

本当に女性が頑張ってきた直売所です。

静岡市の真ん中辺りにアグリロード美和があります。ただ、市街化調整区域と市街化区域のちょうど境の市街化調整区域です。調整区域ということでは家にできない、商店ができない、いわば田舎です。その田舎でなぜ直売活動を始めたかとい

いますと、二十年前に女性たちの元気がなくなってきたことが大きな原因だったと思います。漁協のみなさんもそうかもしれませんけれども、農協女性部も時代とともにほとんど部員が減ってきてしまい、何かをしなければ部員は減り続けます。もう一つ、二十年前は、みなさんは若い



静岡市街から、車で約20分。茶畑が広がる市内有数のお茶処です。





のであまり記憶にないかもしれないですが、食の安全・添加物がとても問題になった頃でした。私は子供が小学校や保育園に行っていた頃によく赤いソーセージをお弁当に入れたのです。何も考えずにきれいなお弁当を作ろうと思って使っていたのですけれども、そういう物が非常に心配された時期でもありました。

それで、農協女性部として何ができるだろうか、私たち女性で何ができるだろうかとということで、女性部の部員を増やすこと、消費者に安全な農産物を提供すること、この二つの理念を挙げて直売活動を行ってきました。

### 朝市からはじめた直売活動

でも、私は農家の主婦ですし、直売活動に手を染めることにすごく大きな抵抗を感じていました。私は生産農家に嫁に行きました。もちろん舅もいたし、三人の子供も育ててきました。大きな農家だったので非常に忙しいです。お茶も三町歩以上あります。それで何とか生計が保てる農家だったのです。なので「直売所なんか何でやるのかな」とすごく思ったのですが、女性たちがやりたいということもありまして、私も支部長に就任したこともあって、部員も増やさなければならぬ、女性たちの想いも何とかつなげなければならぬということとで、一年間かけて勉強会を開いて最初は朝市活動を立ち上げました。

平成七年に私が女性部の役員になり、そこから一年間かけて勉強会をして、平成八年に農協の軒先を借りて朝市活動を始めました。その時に、市街化調整区域で農産物を置いただけでは買ってくれる人がいな

いので、日本に今一番残っているのは米だから、米を加工して、それと一緒に農産物を買ってもらおうと、それには加工所が必要ではないかと、農協に働き掛けをしました。農協は、その頃は機械化がまだまだ不十分で今の農村と違って本当に忙しかったので、「農村の女性がそんな直売活動なんてやっても成功するわけがない」と農協に大反対されたのですが、女性のその想いを実現しようということで農協の空き店舗を改装してお菓子と惣菜の加工室をつくりました。それらを中心に農産物と一緒に売ることを進めてきたのです。

路上での対面販売で土曜日と日曜日の活動でした。それまで私はちょっと大きな農家だったものですから直接お金を受け取ることはなかったのです。お茶とミカンを農協に出荷して口座に入ったお金を毎月出して使うことに慣れていたので、直接お客さまからお金を頂くことが本当に恥ずかしいことで、まるで恵んでもらうような気がして、惨めだったらしいような何とも言えない思いがずっとありました。その頃の自分を見て「ああ、情けないな」と今は反省しているところです。評判も良くて一年目には一千万、二年目には二千万売れるようになったのです。

### 直売所への展開

そうしたら、お客さまが近くに自転車や車を停めたりするものですから近所の人たちから苦情がきて、「もう路上での朝市はやめよう。直売所に入ろう」ということになりました。農協がAコープの隣に直売所を持っていて、その中のテナントがちょうど空いたものですから、そのテナントを借



りて直売所をすることにしました。

この時も農協に何回も話しに行きました。でも農協は「Aコープの隣で直売所をやっていくにはAコープが毎日やっているように年中無休でやらなければいけない。とても農家の女性がやり通せるものではない。まず売物がないじゃないか」と大変反対されて、「家賃も払えるのかどうか」と言われたのです。でも、「一歩進んだんだから、前へ行くしかない」と、「私たちは絶対責任を持ってやるから、とにかく貸してくれ」と農協に言ってテナントを借りまして、平成十年にオープンしました。

今まで土曜日と日曜日の午前中の朝市だったので余剰農産物売れば良かったのですが、毎日となると商品が足りません。お魚もすぐに獲れるものではないと思いますが、農産物も短いものでも三カ月、長いものでは半年ぐらいかかり、直売

所を開いたからといってすぐに商品が増えるわけではないです。

ですから、直売所を開いてからの半年間が一番経済的に大変な時でした。朝一時間もすれば全て売ってしまうので、せっかく直売所に来られたお客さまにAコープの商品を買ってもらうという状態でした。しかもレジ担当者にも給料を払わなければならない、テナント料も払わなければならないということと、この半年は私も借金をしなければならぬかと思うぐらい大変でした。

そこで八年間経過しましたが、出荷者と買ってくれる人が入り混じって「この商品はこういうのだよ」「これはこうして食べるとおいしいんだよ」「これは私が朝暗いうちに起きて収穫したんだよ」と、そういう話が消費者とできたことですごく和氣あいあいとした直売所になりました。

それから八年で八千万円まで売上が伸びました。そして、大変なことが起きてしまったのです。農協がAコープを運営していたのですが、経営難でAコープを閉鎖することになったのです。そこで私たちは農協にAコープの店舗を私たちに貸してくれと交渉に行きました。

### 前に進まなければ駄目

「Aコープが駄目なものをおまえらにやるわけがない」と一笑に付されてしまったのですが、Aコープの店舗がすごく広がったので、「せめて半分に仕切って半分貸してくれ、何とかするから」と言いまして、「家賃も高いぞ」と言われたけれども、やはりここでも「前に出なければ駄目、もう後ろには引けない」と思ったのです。資

金をかけて店舗を半分に仕切って半分借りることにして、残り半分は農協の施設として使ってもらおうとしました。

それまで十坪ぐらいだったのですけれども、百坪の直売所になったので非常に広くなりました。この決断をして一番心配したのは、私たちは農産物とお弁当などの加工品だけしか売っていない中、コープが無くなってしまってお客さまは来てくれないかもしれない、どのくらい売上が落ちてしまうのだろうか、家賃は払えるのだろうかとても心配なのですが、オープンしたらお客さまが来てました。

本当にお客さまはありがたいです。私たちが十年間かけてお客さまを欺かない農産物を作ってきて、価格もべらぼうにつり上げたものではなく、朝取りはきちんと朝取りとしてやってきたと、そういうことをお客さまは分かってくださったと思うのです。売上が「徳まで出るようになりました。」「よし、これで大丈夫だ」「よし、やっていくぞ」と私たちはこですごく自信をつけただけです。それが今の直売所の原点です。

### お客様を欺かないためにしてきたこと

お客さまを欺かないために何をしてきたかという点、「生消費言(せいしょうごん)倶楽部」として、生産者の生、消費者の消、野菜について本音で話し合います。という「倶楽部」をつくったのです。つくったというよりも、直売所を立ち上げる時からお金儲けだけの直売所はやりたくない、消費者に野菜とか農業のことをいろいろ分かってもらった中で買っていただかなければ意味がないと思っておりますし



年間10回程度  
消費者や子供たちと一緒に  
農作業や収穫物の調理実習

ので、野菜の試食会はずっとやっております。

平成十三年から生消費言倶楽部という形で地域の遊休農地を借りて消費者と一緒にいろいろな農産物を作って食べた加工したりする活動を続けてきました。その中で、消費者の中から「味噌づくり」が一番してみたいという声が出たのです。私はこれがいいと思ったのです。なぜいいと思ったかといいますと、アグリロードでは七百円で味噌を売っているのですけれども、「スーパーでは味噌が二百九十八円でも売っているじゃないか。アグリは儲け主義だ」という声があったのです。それで、生消費言倶楽部の活動として、一緒に大豆を作って、消費者に草取りもしてもらい、味噌造りまでして、それを一年預かって消費者に渡そうという活動をしてきたのです。



地元の食材をふんだんに使った地産地消弁当

### 生産者を口説きながら行う消費者との味噌づくり

大豆は七月に種まきをします。すごく暑い時期です。「消費者と一緒にやります」と告示をして七十人ぐらい集まりました。テントを張ったり冷たい水を用意したり、農家の人だけならトイレの準備はしなくていいのですが、トイレの準備もしました。消費者は暑い中に十五分ぐらいしか畑にいられません。生産者の人たちは慣れているので、「あんな消費者の人たちと一緒に活動するのは嫌よ。足手まといになっちゃうじゃないの」「なによ、あの人ヒールのある靴履いてきて、畑に入れるわけがないじゃないの」「なによ、イヤリングなんかしちゃってさ」「ネックレスなんかしちゃってさ」と嫌がりました。でも、「そんなこと言っていたらお互い理解がで

きないの」と、「今は農業基本法になったんだから消費者の人たちと理解し合いながらやっていかなきゃ駄目なんだよ」と、生産者を口説きながらやってきたのです。その種まきの時に「大豆は水に浸っている時間が長いと腐っちゃうんだよ。台風でもきたら腐っちゃうて芽が出ないよ」という話をしたので。豆をまいてから十日ぐらいして本場に大きな台風がきて田んぼが水に浸ってしまいました。何とか水を抜かなければと私もかっぱを着て水を一生懸命抜きました。消費者の方も「私がいれた種が腐ったかどうかに来た」と、次の日にも「大丈夫かどうか見に来たよ」と、自分でまいた種がどうなったかすごく気になって見に来たのです。「来月の生消費言倶楽部のときには多分青々としたものが見られると思うよ」と言うと安心して帰って行きました。それから一カ月後に農協に集まって歩いて畑に行ったのですが、畑が見えてくると「ワー」という声が上がりました。何かと思ったら、見事なグリーンの大畑ができていて、紫色のきれいな花が咲いている頃だったので、それを見て消費者の人たちがすごく感激してくれたのです。その時はまだ生産者は「種まいたんだからこうなるのは当然じゃん」と言っていたのですけれども、草取りもし、何とか秋の収穫になりました。

秋の収穫は、その畑で昔の足踏み脱穀機を使って収穫をしたのですが、その時に消費者の人たちが朝から晩まで本場に手作業で一生懸命やってくださったのです。それで、「一粒から何個の豆ができるかな」と、私たちは「当然百粒ぐらいはできるでしょ」と思っているけれども、「百二十四個



あったよ、この枝は」と教えているのです。私たちは「だいたいこのべらぐ」というのに慣れているので一粒から粒のくらしいの豆が取れるのかを私たちも教えてもらったら、「消費者の人たちはこういうことに興味があるんだな」と思ったのです。

それで、一緒に活動をして、「ああ、消費者の人たちに助けていただいで今日は収穫ができて、選別もできて、良かったね」と、本当に半年かけて生産者と消費者の心が一緒になることができました。この農作業を通して気持ちが一ツになれたことでとてもいい活動だったと思っています。

十二月に味噌づくりをして七月まで保管し、配送してきたのですけれども、消費者の人たちに食べていただいた時に「七百年じゃ安いよ。千円でもいいよ」という声が出たのです。とても千円では売れないですけれども、価格についても理解をしていただけたことは、生消費言倶楽部としてはすごく成果がありました。一年単位の事業ですけれども、今でも五十人以上の会員が毎年応募してくれます。

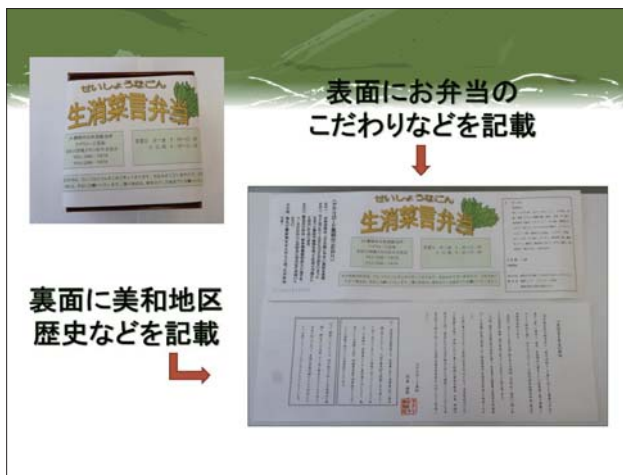
### 千円もお弁当！

そついで生消費言倶楽部の活動から生まれたのがお弁当です。「生消費言弁当」を今千円で売っています。消費者のみなさんから「農産物を一束百円ばかりで売ります、もう少し付加価値をつけて高く売ったらどう」という声を頂いたのです。でも、その頃は「市街化調整区域で田舎だから、こんなもんでしょ」とでアグリロード美和の直売所では二百五十円のお弁当しか売っていませんでした。「こんな千円もお弁当か売らんかな売れるわけがないじゃないの」と

言ってきたのですが、あまりにも消費者の方たちが背中を押すので、メニューづくりからお弁当箱から全部消費者の人たちと話し合いながら作り上げました。

今は地元産の食材を八十五パーセントぐらい使っています。お弁当箱も注文品です。私はけちですから捨ててしまう物にお金をかけるのはもったいないので五十、六十円のバックでもいいのではないかと思っただけですけれども、十種類ぐらいのお弁当箱に同じものを同じグラム数入れて並べてみたら全然見えが違つたのです。

お弁当の外箱だけでも今二百円します。「こんなものに金をかけてどうするんだ」とすつと私は思っていたのですが、買ってくれる人がそれくらいと言つのならやってみようと思ひ、売れ出すことにしました。でも、この箱は千個単位でないと注文できません。千個も注文すると、かさばります。



表面にお弁当の  
こだわりなどを記載

裏面に美和地区  
歴史などを記載

「そこに」キブリの巣でもできたらどうしよう」とすつと心配しました。

でも、上手に売り出しを付けてきました。行政の力も借りましたけれども、三ヶ月で千個売り切れました。その勢いによって生消費言弁当は今でも年間五千食を下らないお弁当になって、アグリロード美和の名物のお弁当の一つになりました。これも消費者のみなさんの後押しがあったからこそできたものであって、「農家の人たちがけだつたらこんなお弁当はとも作れない。相変わらず二百五十円で勝負をしてい

たんだな」と思いました。私たちは、ごくごく普通の食材を普通に作ってきて、十二年経った頃、県からレシピコンクールに出したらどうだという誘いがあり、「こんなものに出してもねえ」と思ひながらレシピコンテストに出してみたら農林水産大臣賞をもらうことになりました。



平成26年  
弁当部門 農林水産大臣賞受賞

た。何年もやっていると情性が出てくるのですが、これを頂いたことよつて「よし、また頑張るぞ」「食材も作るぞ」とまたこゝで元気を取り戻すことができ、「本当にこつという賞を頂くということはそついった効果があるんだな」と思いました。

### デザイン学校の生徒たちとの連携

いろいろな商品開発もしています。近年お茶の価格が低迷している中でイチゴを作る農家が多くなりましたので三等品が出ます。それをジャムにして直売所で売ろうと思つたのですが、ジャムだけではなかなか売れないので、手っ取り早いお菓子を作り始めました。

自分たちが作ったイチゴジャムを入れたブッセを開発し、ちょうど静岡にデザイン学校がありますので、デザイン学校との



ほころぶっせ  
デザイン学校の生徒  
のアイデアでできた  
包装紙を使用

煎茶サブレー

「わかふじ国体」で  
利用されました

J A 静岡市女性卸販売所  
「アグリロード美和」





提携事業として生徒さんにブッセの巻紙とかネーミングをお願いしました。これは、静岡市農協の合併のお祝いのお菓子としてたくさん使われてきました。新聞にも大きく載った商品です。夏は売れ行きが落ちますけれども、冬場に向かって農家は法事なども結構あるものですから、そういうときのお菓子としても使ってもらっております。

## 女性部が勝ち取ってきた 女性の参画

このように一億を目指して「元氣よく頑張っている女性たちです。今までは直売所の話だったのですが、視点を変えて男女共同参画に関わるお話をします。

私の所は農村地帯ですからあまり会社がないですが、バブルの頃は下請けでパート

さんを使っていた会社がいくつかありましたが、今は撤退して働く職場がほとんどないです。そういう所でアグリロードが兼業農家の女性を十八人雇用することができました。それが一番大きなことですが、その背景には当然直売所がありますけれども、静岡市農協としてかなり女性の参画を進めてきたのです。農協としてというよりも、女性部が勝ち取ったのかもしれない。こういう直売所を通して女性の力を農協に知らしめると、静岡市農協は五百一名ありますが、私が静岡市農協の女性部長になった平成十二年に初めてオプザーバーとして総代会に出席させていただきました。

一番前の隅の席でした。パツと振り返ってみたら男性ばかりでした。「何でこんな男性ばかりなんだ」と思いました。それはそうですね。迂闊だったのですが、総代に女性がいないければ男性しかないのです。その時に「これは何ということだ」とすぐ思ったのです。農業は半分から六割は女性が担っているのに、何で総代会という最高の決議機関に女性がいないのだと、これは大変なことになると、「女性の総代をとにかく入れなければしょうがない」と活動してまいりました。

でも、農協は五百一名と決まっているので、そこに女性が入るには、例えば五十人入れるなら五十人の男性に選んでもらわなければなりません。組合長はじめ「そんなことが簡単にできるわけがないじゃないか、考えてみる！」と、男衆は自分の位置を譲って女衆にそんな位置やらないよ。女が農協に関わるほど俺たちの農協は落ちぶれちゃいない！」と言われたのです。どう見てもおかしいですよ。

それで、私は女性部長の仕事として総代



に女性を入れなければいけないと、「徐々に増やしていくより一気に二十パーセント入れなきゃしょうがない！」と思い、女性の総代を二十パーセント入れようと奔走しました。組合長を口説き、理事長を口説き、本当に大変でした。女性部長をしていた十二年・十三年・十四年の三年間をかけた女性の総代をつくる活動をし、十四年に女性の総代二十パーセントが実現できてきたのです。

それで、せっかく総代になっても女性が発言しないのは情けないので、私が率先して手を挙げて質問をします。「静岡市農協に女性の管理職がないのはどういうわけだ」と聞くと、「女性の採用はたくさんしています」と答えてきます。「私はそういうことを聞いてるんじゃないかと、管理職はどうなんだって聞いてるんです」と聞き返すと、「将来そのようにします」とは答えて

くれたのですけれどもなかなか管理職が育ちませんでした。次の三月に小さな支店の支店長に女性の職員がなったのですが、小さな支店は合併したら女性の支店長は無くなってしまいました。女性の管理職については本当に頑張っているところですが、けれども、なかなか達成できません。ですが、二〇一五年には農協に女性の総代ができたのです。

それで、「この勢いによって平成十七年に女性の理事を出さなきゃしょうがない！」という女性部の強い思いがあり、女性部が地域から女性の理事を出す運動をしてまいりました。「おまえ今度理事に出るっていうけど、今まで女が理事になったことはない。今までないことを静岡市農協が率先してやることはないんじゃないか！」という電話がよくあり、本当に涙、涙だったのですけれども、二〇一七年に理事になることができました。

## 女性理事を増やす

女性理事というのは農協の経営に関わっていく決定権のある者なのです。一人で頑張ってみただけでも一人では無理だと、とにかく理事を増やさなければならぬというところで奔走して、今三名の理事がいます。今から三十パーセントぐらいに伸ばさなければいけないと思ってるんですけれども、まだまだ私の力が足りなくて、今は二十九名中三名が女性理事として農協の経営に携わっています。

私も定年になる頃になってやっと物が言えるような状況になってきて、今はどのようなかでも言える状態になっています。ここまでくるにはやはり「こんなこと言っ

ていいのかしら」「こんな質問したら恥ずかしいんじゃないかしら」とずっと気にきてきて、今四期目です。

## 自分たちが経営者としてやっつけていく活動

今農協の店舗統合がかなり進んでおります。農協の敷地の中に私たちの直売所があるのですが、農協を壊して新しい農協ができました。今度私たちの直売所が壊されるのです。新しい直売所をどうしてもつくりたいという女性部の強い思いがありましてまた農協に行きました。

今度は理事として力を発揮しなければと思っていたのですが、「女性も高齢化した中で女性部の直売所を持たなくても、静岡市農協には五つの自前の直売所があるんだからそこに出荷すればいいじゃないか」と言われたのです。それは農協が経営するものなので、自分たちが経営者としてやっつけていく活動ではないです。

どうしても自分たちで活動の拠点をもちたいということで、出荷者百四十人全員が総意でつくることになったのですが、もちろん補助事業もあるのですが、五千万円ぐらの借金を抱えてやっつけていく事業になりますので、私も本当に重い事業をやっつけていかなければならないと思いました。

そのためにはやはり、静岡市の中でお客さまの奪い合いをしても始まらないです。新東名に比較的近いので、新東名から降りてくる観光バスが目の前を通ってどこかに行ってしまうのもつらいなと、直売所に寄ってもらうには何かをしなければならぬなというところで、お茶農家はお茶摘み体験、イチゴ農家はイチゴ摘み体験、先ほ

これからのアグリロード美和  
～地域農業振興をめざして～

- お茶農家や生産農家と連携し茶摘み体験や収穫体験の実施
- 地域宿泊施設や民泊を利用した宿泊付農業体験の実施
- 伝統食や伝統行事体験の実施



都市と農村をつなぎ地域の活性化を目指します。



どの大豆でもいいし、味噌づくりでもいいし、直売加工所の中ではないいろいろな加工体験もできるし、そのような体験を通してお客さんに足を止めていただき、お弁当は必ずアグリロードで食べてもらおうということに方向がっていきこうと、準備を進めているところです。

もう一つは、私も八月一日～二十一日まで孫を四人預かってやってみたのですが、「子供たちの宿泊体験って母親にとっては絶対的に必要なことだな、こういうことを受け入れていこう」と、伝統食とか伝統行事も当然大事にしていかなければならないと思っ準備を進めているところなんです。新しい加工所と直売所をつくりながらこういう事業を進めていくというところで百四十人が一丸となって前に進もうと、高齢になってきて大変ですけども、と

にかく前に行こうということを進めていきます。

私たちは農協女性部の直売所で事務局にはかなり手伝ってもらっています。特に私はパソコンが使えないので、「こういう資料作って」「こういうレシピ作って」「こういうものをちょっと出してみて」と言えはすぐにやってくれます。その事務局も「あんだ、明日までだよ。今夜夜なべしてやっつてよ」と言えはそれなりにやっつてくださる。そのように農協と連携を取りながらやっつけている。それが二十年という歴史の中で徐々に上向いて上がってきたと思っ

ています。私の力ではなく、百四十人みんなの力、事務局の力、農協の力、一番大きいのはJAというブランドです。JAという名前があるだけでブランドなのです。そういうものを大切にしながら前へ進んで、

仲間をつくりながらやっつけていけたらいいと思っっています。

**明神** 本当に素晴らしい活動を聞かせていただいてありがとうございます。お弁当味噌づくり、煎茶サブレ、イチゴブッセと和から洋まで加工開発をなさっていらっしゃるのですが、全て女性部のみなさんでなさっているのですか。

**海野** 最初は県の補助事業などを使ったのでプロの方を使ってみたらどうだという県のアドバイスがあったのでお願いしてみたのですが、やはり自分でやらないと駄目だと思っのです。自分たちの所に何かがあるか、私たちができることは何だろうか、できないことはできないです。みんな話しかけてこれだったらできるというところを持っていかなないと長続きはしないと思っのです。

ですから、新商品を開発するのは、美和の中になんか農産物が一番残っているか、それを何にしたらみなさんが欲しいか、こういう状態だったら欲しいが、これだと買わない、このぐらいの値段なら買っというのを開発チームと話し合いながら、県、保健所等にお願っするところはありますけれども、商品を作ることにっつては自分たちでやっつけています。

**明神** お菓子づくりになりますと加工施設をつくることになると思っのですが、女性部活動の利益などで建設したのですか。

**海野** アグリロード美和の利益で全部賄います。

**明神** ありがとうございます。





# み・ん・な・な・で

# トリーク

司会進行：関いずみ



**関** みなさんお待ちせいたしました。「みんなで行く」の時間がまじりま

した。まず前に出ていただきたい。パネリストの方を紹介したと思います。向かって左側から、基調講演をしていただきましたアグリロード美和の海野さん、徳島県の和田島漁協女性部の鳴滝さん、静岡県漁連の川口さん、そして鹿児島県水産技術開発センターの奥原さんです。よろしくお願

いします。  
講演では、海野さんにご自身が歩まれてきた道、そしてアグリロード美和の活動のお話をさせていただきました。そこで、まず海野さん以外の三名のパネリストの方に、自己紹介を兼ねて、活動なり自分の想いなどを披露していただきたいと思

**周田の人たちと協働、連携することが重要**

**鳴滝** 和田島は徳島県下一のバッチ網の統数を誇っています。和田島にはバッチ網の漁家が三十軒あります。でも、三十年ほど前から比べますと漁獲高が三分の一ほどに減っております。漁業者である私たちは危機感を持ちました。水産業の強化が必要だということ、組合にもお手伝いいただきながら新たな取り組みを始めました。

和田島漁協女性部は今、二十七名の部員がいます。三十代が三人ぐらい、あとは四十代、五十代、六十代と、私の母親よりも少し若い七十代の人が二、三人で活動しております。これまで行ってきた活動には、「婦人部防火クラブ」「ライフジャケットすすめ隊」、それから「和田島女性元氣会」があります。また、和田島には以前から漁祭りがあります。祭りの時には勝浦座という徳島の人形浄瑠璃が来て、三番叟（さんばそう）とか恵比寿舞を舞ってくれます。漁協の三階に舞台をつくりまして、部員や漁協の役員などで大漁祈願を致します。その前に浜まわりというのをしますが、私たちが荷揚げする港で恵比寿舞を

して大漁祈願と漁の安全をお祈りします。その時の賄いは、私たち女性部が担当しています。

「婦人部防火クラブ」は、みなさんの地区にもあると思います。和田島婦人防火クラブは今から三十六年前にできました。漁村の男性は、昼間は漁に出ていて不在なので、「火事が起きては困るから、陸に残った女の人たちが何かせんといかん」ということで、婦人部防火クラブを結成したと聞いております。その活動を私たちが引き継いでおります。ライフジャケットすすめ隊は、徳島県下で私たちの地区が初めて海上保安庁から委嘱されました。また、アルミの空き缶を集めて現金に替えて地元

の病院に車いすを三台寄贈するということもやっています。  
「和田島女性元氣会」は一般社団法人CS阿波地域再生まちづくりの方と活動しております。また、農業者・漁業者をはじめ産・官・学・民、徳島大学、阿南高専、CS阿波の方々と一緒に活動している、「こまつしま漁と農ゆめ会議」というものも立ち上げています。漁家や農家の、何かいろいろやりたい者同士が集まったのですが、自分たちだけではどうすることもで





奥原 誠氏

鹿児島県水産技術開発センター  
(鹿児島県)

企画・栽培養殖部で主任水産業専門普及指導員をしています。

最近では、低・未利用魚の付加価値向上対策として、漁業士とともに商談会の開催や様々なイベントでの試食・販売会を積極的に実施しています。



川口 照恵氏

静岡県漁業協同組合連合会  
(静岡県)

平成19年4月より指導部所属となり、同時にJF静岡女性連事務局を担当しています。

女性連が主催する各種会議の準備や研修会・女性部大会の計画や運営と、関係機関との調整などを行っています。



鳴滝 貴美子氏

和田島漁協女性部  
(徳島県)

漁業、農業の連携による新たな活動の担い手づくりを目的とした「こまつしま漁と農のゆめ会議」の立ち上げから参画。ちりめんのPRを目的としたちりめん市の企画運営や小学生を対象とした海洋環境学習などの活動も行っています。

きないので、大学の先生やCS阿波の方たちにアドバイスを頂いてこの会をつくることができました。

夢会議では、活動Aが既存資源の調査・活用、活動Bが六次化産業促進、活動Cが担い手育成、交流・連携の促進、活動Dが低炭素型活動促進、活動Eが市民防災促進と活動内容を決めまして、平成二十三年度に体制づくりとビジョンづくり、平成二十四年度には漁師体験、ちりめん市、学習会、勉強会、六次化商品試作練習、平成二十五年度に漁師体験、ちりめん市、学習会、勉強会、料理づくりシエフ実践と少しずつ夢を形にできています。月に一度ワークショップを開催しています。

「ちりめん市」は、漁獲高が減った上に燃料は高いし、魚は買ったたかれると、それではたまらないということと、和田島漁協女性部主催で消費拡大、価格上昇、付加価値づけを目的に毎年十月頃に開催しております。今年で五回目となります。

第三回ちりめん市の時は、台風が接近していたのですが、中止にすると次週に順延となって予定がすごく変わってしまうのでみんなの反対を押し切って部長である私の独断で開催しました。片付けが終わって「ああよかったな。なんとかできたな」と言っている時に台風がきました。

「ちりめん市」では、「ちりめんモンスター」といって、チリメンの中に混ぜている小魚や貝、エビ、タコなどをピンセットで探してもらおうイベントなどをやっている、人気を博しています。

その他にも、大正時代に建てられた小松島市内の民家の空き家をCS阿波が改修してワンデーシエフを企画、運営しています。私たちも漁が休みの日曜日に釜揚げ丼とちりめん丼を提供しました。県内の小学生親子を対象にした「わかめの芯抜き体験」というのもあります。ちょうど冬場のワカメの時期だったので、「わかめしゃぶしゃぶ」を食べていただきました。

徳島県が持っている「なっ！とく号」というトラックは、中に厨房が付いています。日本全国を回っています。このトラックと一緒に神戸まつりに行ってチリメンと和田島で養殖している乾燥ワカメの販売も行いました。

加工場近くの小学生が授業の一環として加工場見学に来るので、チリメンのことを質問したり教えてあげたりという交流もありました。そうしたら『大すき和田島ちりめん』というCDDを作ってくれました。

いろいろなことに取り組んでいます。地域の水産業の再生・強化への取り組みは、周囲の人たちと協働型で連携することが重要ではないかと考えております。そして、自分たちの地域を良くするために声に出さなければいけないと思って活動して

おります。

これからのことになりましたが、ゆめ会議を立ち上げたときからの私たちの願いでありました女性部食堂「網元や」を今年の十月三十日にオープンすることになりました。お金のことやいろいろ大変ですけれども頑張っておりますので、みなさん方のご意見やアドバイスを頂けたらと思っております。ありがとうございます。

関 どうもありがとうございます。

地元の主要産業のチリメンをすごく多面的・多角的に活用している様子と、それを行うためのいろいろな分野の人を巻き込んだ連携・体制づくりを紹介していただきました。

続きまして、川口さんお願いします。

**静岡県の漁家と魚を肴に**

川口 あらためまして、みなさま日本一高い富士山と日本一深い海・駿河湾を持っている静岡県にお越しくださいましてどうもありがとうございます。

私は、静岡県漁業協同組合連合会の事務局をやっております。県漁協女性連の事務局を担当して今年で十年目になります。今日お越しくださっている方はほとんどが起業されている方や女性部員さんです。私の立場はみなさんとは少し違うと思います。

県の女性連では、年に一回漁協女性部の部長さん、副部長さんを対象に、講演や視察中心の研修会を開いています。視察先としては県内の魚市場や、最近では農家さんにもよく行っています。魚市場に行く理由としては、静岡県はシラス漁がすごく盛ん



# みんなでき

>> sea

>> people

>> life

ですけれども、一番シラスの忙しい時期に漁を休んで他の市場を見に行くわけがないので、実はみなさん自分の所しか知らないのではないかと勝手に思っています、なるべく他の市場を見ていただくといういろいろな漁協さんの市場を見に行っています。

農家さんにも何回か行っています。視察先も十年やっているのとネタが尽きてきまして、関先生に相談したところ、「何をやっているかということよりも、その取り組み姿勢を見ることが大切だから、農業で頑張っている方を訪ねてもいいんじゃないの」というアドバイスを受けて、最初はSBSテレビで観たことがあるトマトの農家さんに行きました。トマト農家さんがすごく良かったものから、次の年は、メロン農家さんに行きました。その次の年にはお茶農家さんに行きました。

三つ回って私が感じた共通点ですけれども、三つとも直売をしていました。そのうち二つはカフェをやっていました。その方たちは研修会や勉強会などにすごく参加していて、研修会でネットワークを築いていました。お茶農家さんでは、後継者の三十代ぐらいの息子さんが、研修会で出会ったイチゴ農家さんと組んでイチゴを

入れた「いちご紅茶」を作って販売していました。

後継者がいる、ということも共通していました。トマト農家さんは三十代の方で自身の後継者なのですが、その子供がまだ中学生ぐらいだったのですけれども、「僕は農家を継ぎたい」と言っていたということ聞いて、みんなから「さすがだな」と、ため息が出たのを覚えています。

こういった研修を続ける中で、農協女性連さんから「漁協女性連と一緒に料理教室をやってみたい」と声を掛けていただく機会がございました。農協さんには味噌やジャムを作っているのです、その話をしてもいいというリンクエラストがあったので魚の料理教室をしました。魚をおろすこともやりましたが、シラスの話とか、「生シラスと釜揚げを食べ比べてみましょう」とか、天候に左右されないものというところでシラスが扱われました。そんなふうに、農業女性との連携が生まれてきています。

例えば、御前崎市の方が今日「がわ」という味噌汁を作ってくれたのですけれども、その時も魚は漁協から持ってきてました。野菜は農協の方に「タマネギを持って

きてください」「シヨウウガを持ってきてください」とお願いして、農協のファーマーズマーケットから持ってきました。今日の「がわ」のお味噌はアグリロード美和の味噌を使わせていただきました。

私は三年ほど前から日本酒とのコラボを進めています。毎年漁協女性部大会というのを開催しているのですが、たまたま講師をお願いした方が地域ブランドアドバイザーで、水産だけでなく、日本酒に思い入れのある方だったので。県の方からも女性部大会でお酒やお茶の提供という申し入れがありまして、ありがたくお願いして、静岡県産の日本酒とお茶で、全国から取り寄せた塩辛などをつまみにお酒を飲むという宴会のような女性部大会を開きました。その時の講演は、「静岡県の魚を酒の肴にしましょう」という内容だったので、「静岡県のお酒は魚に合わせて造っている方がすごく多いから、魚はおかずじゃなくて、酒の肴として売り込みをした方がいいよ」というアドバイスをいただきました。

でも、具体的に何をやればよいかは解らなかったのですが、たまたま会社の近所の酒屋さんから、「静岡県が売り出しをしている日本酒があるから、それに合わせて魚

を提供したい」という相談が来ました。そこで、「魚を提供するからには漁師も一緒に連れて行くので漁師にも話をさせていたほしい」ということを持ちかけました。その酒屋さんが、すごく反応が良くて盛り上がりまして、結果的には、「静岡県の魚で肴 静岡県の漁家と魚を肴に静岡県の地酒で昼酒」とタイトルを付けて、県の女性連主催で日本酒にこだわりのある料理が評判の居酒屋さんでイベントを開催することになりました。

このイベントを開催する時に私のほうでたくらみを幾つか入れました。一つは参加者を選ばせていただきました。無料の料理教室とか試食というのはただ食べに来るだけの人も結構います。普及のためですから全否定するわけではないですけれども、それだけですとむなしくなってしまうので、イベントに参加することでその先を行ってくれる人、農協の女性部さんたちの苦労を知っている人、そういう方に先にダイレクタメールを出しました。そうしたらほとんどどこで埋まってしまう、一般で来た人はほんの少しという状況になりました。結果的に来てくださったのが農協さんと男女共同参画の方、市の観光担当の方でした。



日本酒を全面に出して募集をしました。当たり前ですが、魚を全面に出すイベントですと魚の好きな人しか来ないのですが、日本酒を目当てにイベントに来た人に「お魚っておいしいんだね」「酒の肴にお魚っていいんだね」と気付いてもらった方がいいのではないかと思っただけです。魚にそれほど興味なくても日本酒を好きな人が来てついでに魚も食べてくれればいいという

感じで、静岡県の日本酒はとても評判がいいので、日本酒人気に便乗してそういうことをやるようにしました。

試食の時に小川漁協さんのサバのこうじ漬けを食べられた方もいらっしやると思っていますけれども、あの酒かすは「磯自慢」という全国的にかなりブランド力の強いお酒の酒かすで、お酒の好きな人は磯自慢の酒かすを使っているんだら食べてみたい

いと絶対に思うと焼津市民としては強く思うわけです。



それから、料理イベントの時には漁業のことを伝えたいというも思っています。料理が上手な人や魚屋さんなら誰でも魚料理のイベントはできるのですけれども、漁業の現場を伝えることはやはり漁師しかできないと思います。魚で肴のイベントの時には、女性部さんに来てもらったのですが、たまたま一人の女性部員さんが旦那さまを連れてきてくださったのです。その方は現役の漁師さんで、お話しがとても上手で、漁業のやり方から資源管理の話まで伝えてくれましたの

で、大好評でした。

県が主催する日本酒のイベントの時に、魚をたくさん使っていたと聞いて、魚が実際に起こりました。その時に、魚のバックにあるストーリーなどを伝えると、魚が好きでなくても漁師さんのことを好きになるのではないかと思ひ、漁師とか漁業を好きになってくれる人を増やしたいと考えてようになりました。

他の業種とのコラボもやっていきたいと思っています。農業と漁業がクロアするようなことを考えています。

川口さん、ありがとうございます。一歩下がって視野を広くしているいろいろな縁結びをする企画をされているということで、魚をどう出していくかということをいろいろ工夫されていると感じました。

続きまして、奥原さんお願いします。

### おいしい魚を一般の方々に知っていただき、食べていただく

奥原 みなさんこんにちは。男が一人で少し緊張しておりますが、よろしくお願ひします。

私は鹿児島県指宿市の水産技術開発センターで仕事をしておりますが、二年前にうみ・ひと・くらしフォーラムの三人の先生から鹿児島県でのシンポジウムを開催してくださいと笑顔で頼まれて、指宿の水産技術開発センターでこのフォーラムを開催したことがあります。その時は二つ返事で請け負ったのですけれども、懇親会の準備が大変でした。あちこちに声を掛けて女性の方々に料理を作ってくださいとお願

いまして何とか形は整ったのですけれども、夜の懇親会が始まりました。女性の方ですからそれほど飲まないだろうと思って焼酎とビールを少々用意していましたが、どんだんお酒がなくなると、慌ててビールを買いに走って大変な思いをしました。

鹿児島県には私以外に二十二名の普及員があります。私は、二十二名の普及員のサポートということで仕事をしております。現場で普及員をしているときには女性部の方々と一緒に加工品の開発をしたり販売をしたりという形でしたけれども、現在は漁業士の事務局をしております。

三年前に漁業士会の会長に、使われずに捨てられている低利用魚・未利用魚をどうにか売ってほしいと言われまして、行政に予算を取っていただき、昨年度低利用魚・未利用魚の商談会を開きました。三回に分けて商談会を開催しまして、加工屋さん、量販店の方々、外食産業の方々に全国からそれぞれ百名ぐらい来ていただきました。外食産業の方には日本食研の方と一緒に商品開発をしていただき、ファーストフード

という形で試作品を出しました。おかげさまで大手居酒屋の方々に商品として買っていただいた物もいくつかございます。その事業が今年の三月で終わりましたが、やはり流通に載らない低利用魚・未利用魚はあるわけです。現在はその魚を自分たちで加工していろいろなイベントに持っていく販売しています。その目的は、漁業士の存在が知られていないので、まずは漁業士のPRをしたいということ、低利用魚・未利用魚の商品開発からの流れがありますので、安くておいしい魚を一般の方々に知っていただきながら食べていただく





# みんなであーく

>> sea

>> people

>> life

と、加工品ではなく、ぜひ鮮魚を食べていただきたい、扱っていただきたいということで、浜で食べられているような食べ方を一般の方々に「こういう食べ方があるんですよ」という形で提供させていただいてい

るところです。  
特に最近、居酒屋の方々の前で一般の



方々に振る舞いという形で試食をさせていただき、ついでに居酒屋の方々に「できれば扱ってください」と、予算は特にならないので、漁業士会の予算に基づいて、魚は自分たちで持ち寄り、事務局の私

が段取りをしながら漁業士の方々とやっているところ。ここにお集まりの方々は少し立ち位置が違いますけれども、自分たちが獲った値段の付かない魚に付加価値をつけて売っていききたいというところでは一緒だと思

います。  
**関** 奥原さん、ありがとうございます。現場でそんなに苦労していたとは本当に申し訳ない限りでございますけれども、去年シンポジウムにいらっしやらなかったのは私たちが怖いとおっしゃってましたが、今年

はパネリストにしてしまえば逃げられないだろうということとで前に座っていただいているわけです。  
こういうメンバーで話を進めていきたいのですけれども、まず幾つか私からパネリストのみなさんに質問をしたいと思いま

す。今、みなさんそれぞれの立場でいろいろな活動をしていることを紹介していただいたのですが、地域で実際に活動をして

## 家族の理解が活動を後押し

いく中で、自分自身あるいは周りにいる仲間がどのように変わってきたか、まず海野さんと鳴滝さんに伺いたいと思います。

**海野** 二十年前の自分を見てもみると、少し大きな農家でしたので、夫は町内会長、PTA会、消防団長などいろいろ役の長をしてきたと思います。私は、夫が成果を出すためにサポートしてきました。それが私の仕事であり、またそれを喜びにできたのです。そんな私が、二十年前に支部長に推されました。

**夫**は八人兄弟の末っ子で、五人のお姉さんがいます。ですから、箸がないとか、布団が敷いてないとか、夫が何か言えばみんなが世話を焼いてくれたわけです。ですから本当に何もできない人でした。役員になった時に一番困ったのは、さあ、お屋はどうしよう、今日は帰りが遅くなるかもしれない、ごっしょう、怒られちゃうかな、本当にそう思っていたのです。でも、ある時に主人が、おまえな、帰りは何時になってもいい、何とかなるだろう。男社会と一緒にやっていたら二次会も三次会もあるだ

ろう、と後押しをしてくれたのです。

それで非常に気が楽になり、図に乗ってどんどん歩くようになりました。役員として八日間の海外旅行に行くことになったことがあります。大丈夫かな、夫は死んでしまっじゃないか。家に帰ったらさぞかし流しに食器がいっぱい並んでいるんじゃないか。と恐る恐る家に帰ったら、夫は元気でしたし、流しにも何もありませんでした。それで、私が先に死んでも大丈夫、夫は生きていける、とすごく自信を持ったのです。そういうことは私にとっても良かったし、主人にとってもすごく良かったことだと思います。

**鳴滝** 私の夫は「ばあさんのご飯は」とか「子供の何は」とか本当にいろいろ文句を言うのですが、私がいろいろ活動することに頭から反対はしてないと思います。よそで「おまえの嫁さんは「が」だのうん、よく言われるらしいです。」が「というのには気が強いということとです。うちは、お舅さんは亡くなっていますが、その兄弟が十二人おりまして、ほとんどが近くに住んでいます。姑の四人の兄弟も近くにいます。そういう状態の中ですから「もうがいでおらなじゃないな」という感じで、夫は

味方はしてくれていると思います。でも、これからもっと手なずけていかなければいけないと思っています。

昔は姑が婦人部に入っていました。あまり会合などはしていませんでした。私が女性部の部長となりまして、月一度の定例会も開くようになり、今は組合の職員さんも、組合の二階は女性部の部屋だねと喜んでくれるようになりました。決めないといけないことは女性部に任すからな、という感じで言われるようになりました。

**関** ありがとうございます。家族の理解があつてこそ自由に活動でき、活動をしつかりしていくことで漁協や地域から理解され、きちんと認められるようになってきたということですね。では次に、外側からの立場として川口さんと奥原さん、こういう活動をしている人たちを長く見ているわけですが、いい変わり方をしてる人たちの話がありましたら少し教えてください。

### 外の人との交流が刺激になる

**川口** 「楽しいから女性部員さんも行くこと」といふことで今日も誘ったのですけれども、女性にも県内や全国の研修会にできるだけ参加してもらおうと声をかけています。やはり外からの刺激がすごくいいような気がします。全国の会議で、北海道から沖縄までいろいろな所の人たちと話す、静岡は気候がいいものですかから一年中漁業ができるのですごく幸せだと私自身は思っているのですけれども、そうはいかない地域もある。そういうことに気づかされます。私たちはできないというのではな

く、自分たちももっとやんなきゃといううな声が聞こえることもあります。静岡の女性部の役員は二年交代ですから、外の人と交流して刺激を受けて、役員を終えた後その人がどう変わったか、というのは追いきれない部分もありますけれども、何かしら影響は受けていると思います。

**奥原** 漁業士というのは、それぞれの漁業において例えば新しい販路を開拓といったことを一生懸命やっていたから、県が優秀な漁業者ということで漁業士認定をするわけですが、認定されたといつても、特になんのメリットもないです。でも、未利用魚・低利用魚の商談会やイベントに引つ張りだしているうちに、捨てていた魚をどうにかしたいよね、十円上げれば年間五百万とか一千万違ってくるよね、というような話をするようになったのです。目の色が変わってくるのです。この魚は加工用の原料であるところに売りたい、この魚は鮮魚の形で量販店に買ってもらいたい、ということ。最近は何も言わずに。

活動目的を理解して、自分たちが無駄遣いをしてきた魚を資源としてきちんと活用してお金に換えていきたいと言つようになつてきましたので、こちらとしてもうれしいですし、バックアップのしがいがあると感じているところです。

**関** ありがとうございます。よその状況を知ること、自分たちのことがより理解できるようになるし、そういう刺激が活動を進めさせることもあるのだなと感じました。

奥原さんの話から、稼げるというところが活動のひとつの原動力になっていると思つたのですけれども、海野さんにしろ、

鳴滝さんにしろ、いろいろな活動をされています。大変なこともあると思うのですが、活動を続けていく原動力になっているものは何でしょうか。

**海野** 私は、やはり家族の協力が無いと絶対にできないと思いますので、家族の協力が一番大きな原動力です。次に周囲の協力者です。例えば、商品につける表示、アレルゲンやエネルギー表示はすごく難しく、サポートがないとできないと思います。

**小嶋** 私はタイの一本釣りで有名な、和歌山県の加太から来ました。先ほど鳴滝さんが言われたように、私たちも新しい声を上げたら「やんちゃなやつや」と言われます。でも、やりかけたらもう止まれません。止まったら「ああ、やめてもうた」と言われます。ですから、細々でもいいので、休んでもいいので、数年した時に今日発表されたような立場に立てるように頑張つていきたいと思つています。

**赤間** 私は宮城県七ヶ浜町という所から来ました。一昨年に鹿児島県のシンポジウムに初めて参加しま

したが、その時はただ何となく参加したという感じでした。でも、特に西日本の女性たちは商売っ気があり、感性も違う。西日本の女性ってなんてすごいんだろうと思つたのです。私もそうですが、東北の人は聞かれないと答えられない、自分からガンガン発信していく女性は少ないと思うのです。だからみなさんすごいなと。

今日は自分の中にテーマを持って参加し





# みんなでトーク

>> sea

>> people

>> life

ました。起業するとか商売をするのはまだまだですけれども、一応部長になって十年になるのです。三年目ぐらいまでは高齢になってるし、若い人があまりいないのでこういうのは無くてもいいのではないかと思っていたのですが、震災がきっかけでやっぱり存続していくべきだと気持ちが固まったのです。

その中で、もう人は増えない、みんなが年を取っていく、じゃあこれからどうしたらいいかと考えた時に、女性部でちょっとした会議があったので、十人しかいない小さな会議ですが、みんなで宮城県から出て、ぜひいろいろな勉強会に参加したいじゃないですかという話をしたので。そういう所に参加しても、そこから活動へはなかなかつながっていかないのですが、もっともっと自分を高めるためにも、こういう機会があればみなさんのお話をたくさん聞きたいと思えます。

## 普及員や事務局と活動する我々が、お互いに高め合っていくといい関係ができる

赤間(夫) 川口さんに質問があるので

けれども、他県の事務局との交流はあるのでしょうか。事務局次第で活動内容がだいぶ変わってくる感じています。

私はつい最近までサラリーマンをやっていたので、漁業に入った時に、情報に触れる機会が極端に少ないと感じました。ですから、もっともっと事務局さんには勉強してもらい、情報をわれわれに教えてほしいと思います。震災直後は制度を知らなくて借金をつくってかみさんに怒られましてたけれども、やはり教えてもらわないと分からないこともあります。もちろんわれわれも外に出て、積極的に学ばなければいけないのも確かです。

はっきり言って今忙しいものですが、今日も来なくなかったのですが、妻が二人分予約しちゃったから行くことよと言っているので一緒にきました。今、うちの若い連中がノリの種付けをしていますので私はここにいるべきではないのですけれども、来て良かったです。結構全国には前向きな女性がいらっしゃることがわかりましたし、これは私の立場でも当てはまるな、これは俺のちよっと斜め上かなとか、いろいろ勉強になりました。東北でもこういう方たちがもっともっと増えるのと何か面白いことが起

こるかなと感じました。

余談ですけども、私には姉が四人います。うちの周りにはおやじの兄弟がごろいいますので、身に染みるころはあります。でも、よくやってくれます。そういう意味ではよく頑張っている嫁です。

川口 今日他県の事務局さんも県内の事務局さんでもありますので話じつらいところもあるのですが、各漁協さんによって事務局の関わり方が全然違います。県内でも事務局が全部準備をやってくれて、当日は女性部さんだけが来る所と、女性部さんが通帳も持って企画から交渉まで全てやる所もありますし、本当いろいろです。

事務局同士のつながりというのは、多分県内の漁協の事務局さんの横のつながりはあまりないです。女性連の場合は、全国の会があって年に二、三回は顔を合わせるの、悩んだ時に「そちらの県ではどうしている？」ということまで電話をすることはあります。

青年部の事務局さんは割と若い方ですよね。女性部の事務局さんは当然女性が多いのですけれども、県漁連でもそうです。女性の地位は残念ながら低いのです。ですから、なかなか言いにくい部分があることは

感じています。

それから、事務局さんが一生懸命言っても、女性部や青年部の人やろうと言ってくれないと動かない。事務局さんは事務的なことしかできないので、青年部のメンバーは青年部の中で説得してもらわないと動かないとすごく感じています。

関 ありがとうございます。それぞれの立場、微妙な力関係のところどうまくやっていくにはどうするかという話になってきました。桑原さんは、普及員さんとの連携の中で、むしろ漁業者が普及員を育ててきたという話をよくお聞きするのですが、どういふふうに関係性を作り上げていっているのか紹介していただけますか。

桑原 漁村女性グループ「めばる」の桑原です。

先ほど漁業士会の話が出ましたけれども、大分県では去年漁業士会に女性部ができました。それで、漁業士会女性部として何かしたいという漠然とした想いがあったので、うみ・ひと・くらしのほうに連絡しましたら、加工品の開発をテーマにミニシンポをすることになりました。普及員さんが事務局になって、無事に会議ができ



ました。事務局は大変だったと思います  
が、彼にとってもいい経験になったと思  
います。何をやるにしても、達成感がある  
からやっていてよかったと思う。すべてそれ  
に尽きると思います。

漁業士会では総会と研修会と年に二回集  
まりがありますので、よその地域の普及員  
と知り合う機会もあります。私は大分県の  
普及員は全員知っているとします。普及  
員とわれわれのつながりは深いです。

先ほど海野さんが農協事務局の話をされ  
た時に、農協の事務局を水産に置き換えて  
聞いたら、海野さんのやっていることわ  
れわれのやっていることは似ているな。私  
が目指しているものはそこにあったのか  
と、改めて認識しました。

普及員にはいろいろなことを相談しま  
す。パンコンの話は一つの例ですけれど  
も、何かいいコンテンツとかなんか、こ  
いつも投げ掛けています。そうすると、県  
の職員は情報がたくさんあるものだから  
優先的に持ってきてくれてくるような感  
じがあります。普及員がいて、活動するわ  
れがいて、お互いに高め合っていくこと  
で本当にいい関係をつくっているような  
気がします。

## 決定権がある立場に女性がいないとダメ

**関** ありがとうございます。実は活動し  
ている人自体が周りを動かしていくとい  
う形があるのだなと感じたのですが、奥原  
さんの経験からしてそういう場面と  
いうのはいかがでしょうか。

**奥原** まさにおっしゃるとおりだと思

ます。私は今年五十五歳で普及員を十五年  
やっておりますけれども、三十歳の時に所  
長の後に付いて回っていました。当然技術  
がないわけですが、普及を重ねることに引  
き出しが増えていくわけです。若い普及員  
に、できない引き出しがないように引き出  
しの数を増やせと言っているのです。自分  
が知らなければその道に詳しい人を紹介す  
ると、それでいいわけです。そのように私  
も先輩方に鍛えられてきました。

先ほど赤間さんのご主人がおっしゃいま  
したけれども、悲しいかな、やはり普及員  
次第、状況次第です。うちの会長も相当私  
に無茶振りをします。振られたらできない  
とは言いたくないのですが何とかが頑張っ  
て、そうして経験値を積んでいくわけです。

先ほど桑原さんがおっしゃったとおり、  
やはりわれわれも達成感です。失敗もしな  
がら、それでも終わればよかったねとい  
ながら酒を飲み、次は失敗しないように  
またやっていきましょねと、その繰り返し  
だと思えます。

**関** 活動するに当たっている人の協  
力を得ながらやっていく中で、外部の協力  
者との関係性という話をしてきたのです  
けれども、海野さんや桑原さんは、事務局  
や普及員さんをご育ててこられたところ  
があると思うのですが、どういふふう  
にされてきたのでしょうか。

**海野** 事務局には、あなたたちは農家に使  
われている立場だよ、農家がより収入を取  
るために働かなければいけないよ、とよく  
言うのですが、私の年齢になると事務局を  
育てなければならぬということを感じ  
ます。事務局のこの部分が足りないとな  
ら視察や勉強会に連れていき勉強をさせ

る。そのためには農協の本店から人を下ろ  
さなければならぬのですけれども、私の  
所に来た事務局は三、四年は勉強させてい  
ます。レベルアップしてもらうためにす  
ぐ努力をしています。

もう一つは、決定権のある所に女性の職  
員がいないと駄目です。それで今、一  
生懸命女性の職員を育てていて、管理職  
登用を強く求めています。

試験を通じて農協の職員になってくれた  
女性たちが、結婚して子供を産んだ後な  
か職場復帰できないという状況があ  
ってはいけません。縁があつて  
農協が採用して入ってくれた  
人たちは一生勤めたいと思っ  
ている方が大勢いると思いま  
す。そのためにはやはり子育  
てをしながら勤められる職場  
環境をつくらねといけな  
い。育児休業制度は当然のこ  
とですけれども、それに加え  
てフレックスタイムの登用が  
法制度で決まりましたので、  
静岡市農協が職務規程を改定  
してフレックスタイムを取り  
入れなければいけない。これ  
は女性職員のためだけではなく、  
男性職員のためにも必要  
なことだといふことで奔走し  
てフレックスタイムを入れて  
います。

今はこの職場でもフレック  
クスタイムが定着していると思  
いますけれども、静岡市農  
協では私がいくら言っても、  
他の職場の同僚がその分の仕

事をしなければならぬから取れないよ、  
朝は来なければいいけど、五時には帰れ  
ないよという状態でした。一人の事務局  
あなたに絶対にフレックスタイムを取  
りなさい。私が責任を持ってあなたを窮  
地に陥らせることは絶対にしないから  
と、その年は四人にフレックスタイム  
を取ってもらいました。それを皮切りに  
今は産休明けの女性職員は全員フレ  
ックスタイムを取っていますけれども、  
やはりそういう職場の環境づくりは  
女性にとっては大事なことです。





>> sea

>> people

>> life

# みんなでトーク



それから、絶対に女性の管理職がいなければいけないと思います。例えば加工品一つをとってみても女性の感性と男性の感性では全然違うのです。先ほどおっしゃっていただいたのは十円上がるのと五百万、一千万上がっていくというのとだと思っておりますけれども、男の人はあまり十円を追わないです。女性は夜なべをしてでも朝早く起きてでもその十円を追います。ごすので、やはり女性が活動しやすい位置にいて今の生活を少しでも良くしていくためにも女性管理職は絶対に必要ですし、ご主人の協力も絶対に必要

です。とにかく女性が活動しやすい職場環境、また家庭環境をつくらなければいけないと思います。

**関** ありがとうございます。今、海野さんから農協という組織の中で女性の立ち位置というところで、尽力されてきた話をお伺いしたわけですが、漁協の場合、組織自体が男社会で、そもそも女性は組合員にすらなっていないのが現状だと思えます。そういう部分で女性の発言権をどう確保していくかということは大きな課題だと思います。

## 言葉を発していかなければ変わらない

**吉村** 山口県からまいりました吉村栄子と申します。私は海野さんのお話を聞くのは二度目ですが、今日も感動してしまいました。ありがとうございます。

本当にJFは男社会です。私が女性部長になりました時に言葉を発する場所がありませんでしたので、正組合員にしてもらえないかと上司に掛け合いましたけれども駄目でした。九十日以上上海で操業していないと正組合員になれないという水協法という

法律があつて、お金をいくら積まれても駄目と言われて現在に至っています。

でも、私はずっと言い続けています。言い続けないと男性の目に留まりません。やっと今、私は山口県で唯一の女性理事になつています。理事会に出る場面がありますので、これを言ったら笑われるかなと思いつつも、これでも女性の立場でいろいろ発言させていただいているのですけれども、少し認められてきているなと感じています。

でも、統括支店とか支店に行きますと、女性がなにを言うかというような状況がありますので、これを何とか変えないとどうにもならないと思ひまして、イベントなどには積極的に協力しますし、私からもいろいろ意見・提言もしています。と言いつつも、まだまだJFというのは女性が言葉を出す場所がないという状況です。こういう研修会に出ながら少しずつ私たちが賢くならなければいけないと感じておりまして、「行きませんか」と声を掛けて講習会や研修会、講演会にみなさんを連れ出しているという状況です。

今、男女共同参画のほうからすぐ講演の依頼がありまして県内を回っています。女性が言葉を発していかなければいくら



頑張っても女性の地位は上がらないです。みなさんも言葉を出せる場所があれば必ず言葉を発して、女性がどう思うか、漁業を助けていきたいと思ってるか、そして、漁家の経営も私たちがしっかり頑張ると思ってることを発信することがとても大切だと感じております。

**関** 吉村さん、ありがとうございます。鳴瀬さんにお聞きしたいのですが、鳴瀬さんの活動を聞いていると、漁協も青年部も協力的でうまく連携を取ってやっているなと感じるのですが、うまくいっている秘訣があれば教えてほしいのと、そうではなくて、「いや、実は言ってないだけだよ」ということであれば、そこら辺を暴露していただけないですか。

**鳴瀬** 私たちの組合は、組合長も、頼むなと言つと、よし、分かったという感じで協力してくれるし、女性の組合員もおります。いろいろな方が、組合の中で一番活動しているのは女性部だと認めてくださっている感じなので、何かすると言つと、そりゃ手伝わなければ仕方ないという感じですよ。

**関** ありがとうございます。多分そういうふうには言わせるだけのこれまでの積み重ねがあるのだろつと思えます。

## 不安はあるけれどやっていきたい

**明神(D)** 高知県の明神多紀子です。五年ぶりにうみ・ひと・くらしシンポジウムに参加させていただきました。そして、再会した方、初めてお目にかかった方、ありがとうございます。

昨日から桑原さんと同じホテルでして、

時間を共有しているいろいろなお話をしたのですが、やはり地域で女性が頑張るには仲間の方、家族の協力、それぞれの組織の事務局の方、そういう方たちと協力し合いながら事業を進めなければ大成はできないと感じました。

今は漁家民宿で本場に地域の片隅で活動とも言えないことを細々としております。かつては地域活動の一環として修学旅行の子供たちの体験授業でカツオのたたきづくり体験を取り入れて、やはり地域で何もなるところから物事を立ち上げるとは、足を引っ張られることもあるし、いいことをしているつもりでもそつこではない想いを持っている人たちとの摩擦もあります。けれども、一回やり始めたら立ち止まることなくある程度の道筋をつけるころまで頑張ることが一番大事なことはないかと思いました。

**関** ありがとうございます。

今まで西日本を中心にシンポジウムを開催し、参加者も西の方が多かったのですが、今回静岡での開催ということで、静岡県内の女性部の方に参加していただいております。まず由比港漁協女性部の方にお話ししていただきたいのですけれども、由比の女性部さんはいろいろな活動を始められますごく頑張っているしやるわけですが、活動の楽しさであるとか大変なところがありましたらぜひお話しただけだと思えます。

**望月** 望月です。私たちは二年で役員が交代します。当番が回ってくるからやらなくちゃということ、最初の一年はどのようなことが待っているか分からないので全部挑戦するつもりでやりましたら一年経

つのが早かったのです。やればいろいろできて楽しいことも分かります。本当に家族の協力も必要です。一緒にやっている仲間もその気でやってくれるので助かっているのですけれども、二年目になったら、次の年も前と同じことをするので、前回のことを踏まえて手順よくできるようになつたのです。

それで、こういうことにも参加させてもらい、すごく勉強になってやる気が起きました。みんな年を取ってだんだん若い人たちがいなくなる中で、いろいろな所に出て実際に活動されている人の意見を聞くと頑張ろうと思うようになるので、ここにいる仲間もきつと変わったと思うし、私も楽しく頑張ろうと思えたので、みなさんもこういう会に参加すればいいと思います。

**明神(M)** 高知県から来ました。私は初めてこの会に参加させていただきました。私は漁師の嫁ですが、三十八年間保育士をしてきましたので、漁師のことはほとんどわかりません。

八年前に退職して、主人も漁業を引退し、明神多紀子さんのお誘いを受けて一年間体験の会計と、副代表をやり、民泊も誘っていただいて民泊も始めました。何が何やら分からなかったのですけれども、多紀子さんの後についていけば大丈夫だろうと思つたのです。

こういう場で得たことを、地域に戻って伝えていくことが大事だなということを感じました。

**村松** 大井川港漁協の村松と申します。よろしくお願いたします。

私たちも由比港漁協さんと同じように駿河湾のサクラエビを獲っております。由比

は全国的に知られているのですが、大井川はあまり知られていないので、大井川にもサクラエビありますよ。みなさん来てくださいという気持ちから井市などを始めて、毎月第一日曜日にシラス二百食、サクラエビ二百食ということでお密さまに来ていただいております。

常設の食堂をやるつとつという話はありませんけれども、具体的な話は決まっておりますので、これからみんなで相談していくことになるのではないかと思います。食堂をやるというのは考えてみただけでもすごく大変ですし、大井川の女性部は人数も少ないですし、活動といえは今までは組合からあのイベントに行つてくだささい、このイベントに行つてくだささいと言われて動くような女性部だったのです。今回は、食堂をやるならその前に大井川にサクラエビがあることを知らせるために井市をやるつとつという話を頂いて四月〜十月まで、月一でやっていきます。

三年目になりますけれども、今後は高齢化も進んでいきますので、やれるのかなという不安もありますが、そういう機会を頂いたならばみんなで力を合わせて頑張りたいという気持ちも十分あります。でも、これから組合の人たちと相談しながら進めることになりましてけれども、正直に言つと不安です。

一応来年やるつとつという話になっていますけれども、無事に出発できましたらまたみなさんにご報告したいと思います。今のところはしっかりお話しすることができない状態ですが、一応意気込みはありますので頑張りたいと思えます。

**関** 川口さん、今の村松さんの不安にアド



# みんなでトーク

>> sea  
>> people  
>> life

バイスがありましたらお願いします。

**川口** 私はリスクを負える立場ではないので、女性部さんに起業しろとはあまり言わないです。やるのはみなさんですよ。応援はするけれど、借金は負いませぬ。やりたいのなら自分でやって、冷たい言い方をするとそういうやり方ですけども、大井川漁協さんは漁協の職員さんと組合員さんがすごく仲が良くて協力し合っていると思ってるので、静岡県も応援していますので頑張ってください。

**A** 参考になるかどうか分からないですけども、いろいろなることがあって資金が少なくても個人でやった方が気は楽ということで、私たちは個人起業です。組合の応援を頂いてやるのもよかったです。行政からお金を借りると報告したり何年間はやめられなかったり縛りがたくさんあります。水道を引くの二十万円かかったのですが、イベントを繰り返せば四力月でペイできます。私たちは仕事をしながら小さいお店で土曜のみ営業しています。利益はないですけども、何とか借金は返せました。今はきつくて休んでいるんですけども、これからやっと収益が出てくると思っています。

一番感じているのは、イベントは二日、二日の勝負ですから簡単ですが、持続するのは大変です。私は土日だけですけれども、それでも毎週はきついんです。そこら辺をみなさんとよく話しされて始めた方がいいと思います。

## 達成感は何物にも代え難い

**桑原** これからする方は覚悟ができればあとは簡単です。ただ、先ほど行政の補助金の話がありました。これは自分の経験からですけども、補助金を頂いたら自分に責任がかかるので頑張る力になります。やはり一回や二回やめたくなることもあるんです。でも、私は人のお金をもらった以上頑張るぞと思って乗り切りました。乗り切って本当に良かったと思っています。

今となつてはあと五年か十年早くに始めればよかったと思ってるくらいです。長くやっているだけでも体力がなくなります。体力がなくなったら違う方向を考えたことが必要です。私の場合は、イベントを少なくして、取引先を増やすということにして、売上は増えています。

何かに突き当たる度に次のことを考える

ます。イベントは現金収入ですから分かりやすいし、自分たちが求められている物に分かるので、お客さんと相対することでグループの方向が見えてきます。そうやって覚悟ができたなら、あとは何とかなると言う大変失礼ですけども、お客さんに育てられながら、普及員に育てられながら、もちろんこういう会にも育てられながら今までやってきたような気がします。

先ほども言いましたが、達成感というのは何ものにも代え難いです。実際には、やった！とがっかりの繰り返しですけども、最後は、やった！で終わることが非常に多いので、もし悩んでいるのであれば、ゴーです。

**入江** 初めまして、宗像からまいりました「岬のね〜ちゃん」の代表をしています。江です。

今年是一年目だったのでうちの組合は私たちに対してあまり協力的ではなかったのですが、六月の総会でその時点での収支報告を出せと言われました。私としては、組合から一銭の補助金ももらっていないのに、どうして収支報告を出さなきゃいけないんだという気持ちでしたが、組合長と会い合いもできないので、こういう時、みな

さんどうされてますか？

**濱野** すくも湾女性部の濱野です。今の件でお答えさせていただきます。

漁協は反対のほうを向いています。それをこっちに向かせるのに苦労しました。

やってと言われたら何でも「はい、はい」と聞いています。それで、パソコンが使えないので、私は体を使うことは一生懸命やりますので、事務的な処理はそちらでしてくださいと全部向こうに持たせたのです。そうしたら指導者とうまくいって、お金が無いときは組合長さんにもらいに行きますし、ものすごく協力していただいています。組合長さんも女性部が言えれば嫌とは言えないです。嫌と言ったときは、じゃあ女性部解散しましょうか。邪魔になりますかと言ったら、いや、そんなことないよと、そのように組合と駆け引きしながら、仲良くけんかしながら今日までやってきています。

私の所は天ぷらを作っているのですが、一年の収支は全部自分たちでしています。最終的には商工会にお願いしてやってもらうので、組合にはお金が無いときだけお願いに行っ出てもらっています。

**関** ありがとうございます。



最後に、四人のパネリストの方に一言ずつお願いしたいと思います。

## 学生たちの若い感覚の意見を聞く

**海野** 農協女性部は少し年齢が高いので高齢化等々も心配しているところですけども、漁協女性部の方たちは本当に若くて元気で、これなら日本の漁協は大丈夫だな

と思いました。今日はすごく勉強させていただいて良かったです。

もう一つ気付いたことは、後ろに学生さんがいらっしやいます。私の所の直売所にも東京農大の学生さんがよくちよく来てくださるのです。先生が引き連れても来てくれて、若い学生さんから見てもここをこう変えたらもう少しお客さんが来てくれるのではないかと、この所



はこうしたらいとか、そういう提言をまとめて出してください。二十二年もやっているマンネリ化するのが、それはリフレッシュできる大きな原因です。

去年はダイコン掘りまで教えてもらいました。一緒にダイコンを掘ってとても楽しく過ごさせてもらいましたけれど、そのように全然違う目で見ていただくことはとても大事だと思っております。今日は学生さんが大勢いらしているのでもいいなと思いました。ありがとうございました。

**鳴滝** 私は、今回初めてうみ・ひと・くらしシンポジウムに

参加させていただきまして、いろいろな意味で刺激を受けました。私たちの女性部は二十七人ほどおりますけれども一緒に動ける人は六、七人なのです。少ない人数で動いておりますけれども、今日のみなさん方の活動やご意見をこれからの活動に生かしたいと思っております。ありがとうございました。

## 叶えるためには言葉にする

**川口** 私も今回初めてこの会に出させていただいてこういう席にも立つて緊張しましたが、楽しくやらせていただきました。

先ほど大井川の話で無責任な発言をしたのですけれども、やはりこういう場所に来て発言していただくに必ずどこかで聞いてくれている人がいるのです。私は県漁連の職員ですけれども、この場にも上司もいますし、県の職員もいますし、漁協の人もいます。そういうところで回り回って情報が入ってくる機会が増えると思います。今日も由比の方が発言してくださったのですけれども、同じ女性部の中でも、あつ、そんなふうにも思っていたんだとか、思うことがすごくあるのではないかと思います。

今日は全く黙っていますけれども、浜名っ娘クラブさんの方のストーリーも、女性連の研修会でこういうことをやっているよと言ったことがきっかけで広まったのではないかと思います。こういう会に出て伝えていただくことは大変いいことだと思いますし、私たちもそういう意見を聞きたいと思っておりますので、ぜひみなさんここに

**奥原** 今の話を受けまして、回り回ってくるという話でしたので、漁連の会長に直接には言いづらいので、みなさん方の話が活字になって回ってくることを計算して言いたいと思えますけれども、私は若い漁業士の連中と、捨てられている魚の食べ方の工夫を今までやってきて、非常にまどろっこしく感じておりました。鹿児島中央駅の前に一間間口の七、八人しか入らない居酒屋が四十軒ぐらいいある所があるのです。そこで県内のいろいろな魚を鮮魚の状態あるいは加工品の状態で出してみたいと思っておりますので、帰ったら勇気を振り絞って漁連の会長に言ってみたく思います。会長には、おまえばかじゃねえかと絶対に言われると思うのですが、そのときはみなさんぜひご協力をお願いいたします。あとは懇親会の中でお話したいと思います。

**関** パネリストのみなさまどうもありがとうございました。

昨日、ある人から「叶えるためには言葉にしなきゃいけない。言葉にしたらやらざるを得ないから叶うんだ」というようなことを伺って「ああ、そうだな」とすごく共感しました。口に出さないと伝わらないわけです。今日はそういう意味では自分の想いとか、こうありたい、こうしたいという非常に前向きな発言をたくさん聞かせていただいたと思います。ぜひ言い続けて実現していくようにみんな頑張っていきたいと思います。今日は長時間、ありがとうございました。



前日に話し足りなかったことをざっくばらんにトーク

# もつともつと

# トーク

司会進行：関いずみ



**関** みなさんおはようございます。今日は午前中いっぱい時間がありますので、昨日あまりしゃべれなかった人にもお話ししていただきたいと思えます。よろしくお願ひします。

## うみひとシンプの パワーアップ

**1** 私は、うみ・ひと・くらしの最初から一緒に活動をやっている感じで、足かけ十七年目になりました。六年ぐらい前に普通のおば

ちゃんたちの任意のグループだったのを法人化しまして、二年前に法人化を解いて個人に戻りました。法人化すると商品に対しての信頼度が高くなってデパートなど大きな取引がすごく増えましたけれども、法人化を解いても取引先は全く変わらないです。三越や高島

屋に入るときは、東京の別の小売業者の方が間に入るので、商品に対しての信用が高ければ同じような取引をしてください。活動的にはあまり変化がないので、今回はみなさんの新しいグループのお話を聞きにまいりました。

**2** 私もうみ・ひと・くらしフォーラムが始まってからずっと参加させていたいております。家の都合で去年まで二年間休ませていただいたのですが、しばらく休んでいる間にすごく活発な女性がたくさん増えましたね。宮城県からご夫妻で参加された方もいらして、うみ・ひと・くらしフォーラムも男女共同参画の道を歩み始めたなとうれしく思っております。

**3** グループの代表がどうしても来られないということでも代理できました。以前は組合の婦人部で活動していました。婦人部も儲けがないとみんな去ってしまい、リーダーの船に泳げない二人が残りました。それから十年ぐらい経ちました。漁連との関係もいろいろありましたが、今は

OEMの商品を頼まれる程の仲になりました。私たちは生ノリを使っている商品開発をしています。でも、商品開発はすぐにはできないので、取りあえず幾つも幾

つもサンプルを作って頑張っています。活動をしていると、人と人とのつながりができていて助けられている部分がたくさんあります。一期一会といいますが、どこでつながるか分からないので、やはりこういうシンポジウムを大切にしてこれからも頑張っていきたいと思ひます。

**4** 私は今、漁協女性部の役員をしています。女性部は高齢化と部員の減少に直面しています。川口さんのお話を聞いて、私たちもこういう会があったときには漁連の事務局と一緒に来て聞いてもらい、協力関係を作っていきたいと思ひます。

**5** 私は久しぶりにこのシンポジウムに参加させていただいたのですが、まず一番驚いたことは、年々シンポジウムの質が上がり、特に多くの学生さんが関わっていて、すごくパワーアップされているなと感じました。

私は七十を過ぎて後期高齢を迎えようとしていて、「ひよっとしたら私が一番年上かもわからない」と昨日から周りを見渡しながら考えているくらいなので、新しいことには挑戦できないかもしれないですが、やはりみなさんと出会えて元気を頂いたら生まれつきの出しゃばりの感情が「モ」モ」と湧き上がってくるような昨日のシンポジウムでした。



## 地域の中でのそれぞれの頑張り

6 私たちの地区は宿泊施設がなく、修学旅行生が来てても体験だけで帰ってしまうので、なんとかここに泊まってもらいたいという思いで、まず一軒が民泊を始められ、お誘いを受けて私も始めて七年目になります。一般のお客さまも受け入れるようになります。最近では海外からのお客さまも見えるようになりました。

今の大きな課題は、津波の関係で修学旅行が減っていることで、これを元に戻したいと思っています。

7 うみ・ひと・くらしフォーラムの第一回は私の所(高知県宿毛市)でやらせていただいたのですが、それから十六年くらい参加させてもらっています。私たちはへんぷら(ジャコ天)を作っています。以前は漁師が苦勞して獲ってきた魚を、朝の鮮度のいいうちに隣近所に配ってこいと主人が言つものですから、「何でこの忙しいさなかこんなになんかといかんかな」と思いながら配っていたのですが、どうしてもタダで配るのは納得がいかないのです。ある日、「じゃあこれを天ぷらにしたらどうやろうか」と思つて始めたのが私の所の天ぷら屋なのです。

みなさんの手助けをもらいながら何とか今日までやってきました。十六年という長いようですが、あつという間です。そのうちに自分もこの年になっていくのですけれども、みなさんの支えで今日までやってこれたと感謝しております。

私は浜松出身です。広々とした所で育っているものから、島に嫁いで五十年経ちますけれども、いまだに島の人とうまく

コミュニケーションが取れず大変つらい思いをしながら今日まで生きております。

そういう中で女性部の代表をさせていただき、人前で物を言うことすらできなかった人間がこうして言えるようになったのは女性部の活動の中でみなさんからの知恵を頂いたからだと感謝しております。

### 身体が動く限り若い人と一緒に頑張る

8 私が小さい時、両親はまき網などをやっていました。私は漁師の娘ですが、漁師の世界では女は人間扱いされません。昭和四十九年ごろに百姓の旦那を九州から引っ張ってきました。父の後を継ぐ漁師にしました。

昔は、マアジの漁がたくさんあったのですが、餌にしかないのでもったいないと思つて、両親が作っていた昔からの天ぷらを作つて現在に至っています。今、グループ全体が高齢化しまして足も手も動かなくなりまして、後継者を探したいのですけれどもなかなか出てきません。今年の十月から最低賃金が七百元になりますので、そこに合わせてパート代を上げ、借りているけれどもまだ使っていない廃校になった小学校があるので、そこで違う形で若返りたいと、今試行錯誤しております。

9 多分ここでは私が最高齢者だと思えます。でも、年齢を考えていたら何もできませんので、体が動く限りは若い人と一緒に頑張りたいと思います。

私は、元は漁協女性部の有志で立ち上げたグループを株式会社にして活動してい

ます。地区の高齢化は凄まじく、何もなかったらこの地域は消えてしまいます。とにかくこの地域を残そうという大きな目標を立てまして頑張っているところです。

今若い人はみんなお勤めに出ています。そこで私は、退職したらいらっしやい。まだ六十歳でバリバリでしょうと、声をかけています。そうすると毎年一人二人と入ってきます。

今日はお隣にかわいいお嬢さんのような方が座つていらっしやるでしょう。去年お会いして「すてきな若い人がこういう所に来るっていいな」と思つていましたらお子さんが二人いらっしやるそうです。「子供さんはどうするの?」と聞いたら旦那さんがきちんと見てくれていると言われますけれども、やはりこういう所に子供連れで来られるような体制にすれば、もっともつと若い人が集まりやすくなりこの会が広がるのではないかと感じております。

10 私は、家が代々漁師で、祖父の代からのノリ養殖と底曳きをやっています。漁師になるつもりはなかったのですが、大阪出身の夫が、「男のロマンや、漁師がしたい」と言つので両親の大変さを間近で見ていたのでだいぶ反対したのですが、両親を見てるとけんかしても一緒の仕事をするのとで分り合える部分もあるので、「そんなに言つんじやったら」といつことで結婚を機に漁師になりました。

自分の浜を見たら本当に高齢者ばかりで、私は今三十ですけれども女性部が一番若いという状態で、九十のおばあちゃんが三升釜を持って活動をしているのを見て、ちょっとこれでは先が見えないと、思つていたところ、隣のしおあせさんがこういう

会があると教えてくださいました。本当に人生の先輩、女性部の先輩方で、それぞれお立場があると思つのですけれども、いろいろ勉強させてもらいたいと思つて参加しました。

11 私の家では、カキ養殖と、地区で一軒になったつぼ網(小型定置網)をやっています。経費は掛かりますが、その割に魚価は安いのです。

以前は私も夫と海に出ていましたが、息子が継いでから、私は陸に上がって加工所をつくり、その安い魚を加工して付加価値をつけて売ろうと頑張っているのですが、そう簡単に儲かるものでもなく、元手が結構かかるという感じですよ。

カキの加工では、最初は「出るくいは打たれる」でいろいろありました。でも、農林水産省の「地場もんコンテスト」でアヒージョが金賞をもらつと、横を向いていた県の水産課もいろいろ力を貸してくれるようになりました。

### 漁協女性職員の処遇が変わると漁業の中の女性の評価が変わってくる

12 私は、県の普及員を八年、試験研究を二十年、県の行政を十年ほどやって漁連に入りました。漁連に入つて思うのは県に比べて非常に動きやすい自由なところだと感じています。一方で、漁連の仕事としては青年部や女性部の育成というのがありますが、こういう組織社会にいと、個人の活動や女性グループの起業というところの支援は、組織の中ではやりにくいのです。

ところが、漁業がだんだん縮小してきて



>> sea

>> people

>> life

女性部の部員がどんどん少なくなってきました。そうなるとうちの人数の人が義務感でやるようになって長続きしない。役員も二年交代になって、一年間何とか過ごせば自分の責任は終わると、そのような格好になってくるとなかなか新しい仕事、自由な活動というのはいくらもなくなる。そろそろ方向転換をする時期ではないかと、遅ればせながら感じています。

13 私、静岡県の普及員で女性部の関係を長くやらせていただいております。女性部が無い場合は漁協の中からでもいいのだと思います。女性職員の待遇が変わると漁業の中の女性の評価ももっと変わってくるのではないかと、そういう形で漁協の女性職員の立場の向上も応援していきたいと思っています。

内浦でも食堂の運営をしているのは女性職員です。女性部が無いので漁師のお母さんなどにスタッフをお願いし、開店して一年経ち、今大繁盛しております。

普及員をどんどん使ってください

14 静岡県の水産振興課です。昨年まで伊豆で普及員を二年間やっております。今回初めてこのシンポジウムに参加させていただきましたが、みなさん非常に積極的なと、すごいパワーだなと感じました。今の政策の中でそれぞれの浜で活性化をしていこうという「浜プラン」の取り組みがなされているのですけれども、こういう女性たちをもっと浜プランの中で取り上げていくことこそ、浜がもっともって元気になることにつながるのではないかと非常に強く感じました。

15 私は水産試験場に勤務しております。小学校五年生の社会の教科書に一次産業というところが出てきますので年間一千人ぐら

い水産業の勉強をしに試験場に小学生がやって来ます。さらに、年に一回ですけれども、地元の水産学部があるので九十分学生に話をしに行きます。学生の頭の中には多分行政と試験研究しかないです。ですから冒頭に「普及という話が入ってきて三つそろって行政ですよ」と言うのです。行政で予算を取って試験研究をして技術開発したものを浜のほうに普及していく、あるいは女性の方々から加工品を作りたい、販売をしたい、人が足らないから来てほしいという形でその隙間を埋めていく、そういう形で普及という仕事があるのですという話をします。そうすると、毎年一割くらいの学生が、県庁に入って普及員をやりたいというレポートを書いてきます。

どのような者でも使われているうちに普及員らしくなっていくので、「補助金がないから金持てこい」でもいいですし、魚の食べ方、加工の仕方、販売の仕方、いろいろな話をしてください。あるいはイベントをやりたいということいろいろ無理難題を押し付けてください。そうして一緒にやっていくうちに、何かが生まれてくると思います。

私たちも発信していきます

16 うみひと通信の編集をしています。各地で起業をしている方、女性部で活動をしていらっしゃる方の想いを聞いて、できればそのままとめたいのですけれども、二時間・三時間話をたっぷり聞くのですが十分の一も伝えることができないのです。その想いと、それを読んだ方が「あ、こういうふうにしていい」「私もこういうことをしたい」「もうちょっとやってみよう」というようなところまでつながることができればと思っていますいろいろお話を聞いております。まだしばらく通信は続くと思いますので、みなさんよろしくお願いいたします。

17 東京水産振興会さんと全漁連さんと、去年一年間、漁村で調査をさせていただきました。「浜の活性化に向けた取り組みの現状と課題」というきれいな報告書にまとめました。

昨日土佐のハチキンにつかまったのですが、みなさんすごいパワーで、「これはもしかしたら吉本にスカウトされちゃうんじゃないか」と思うほど、おなかの皮がよじれるほど笑いました。このパワー



を、うみ・ひと・くらしの先生方は十分感  
じられているのだと思います。女性たちの  
起業はいわば中小企業ですから、飲食業に  
対抗するには五千倍ぐらいのパワーで情  
報発信しないといけないと思います。私が  
代弁できる部分もあるという自負がありま  
してちょっと頑張らせていただこうかなと  
思っています。

18 おはようございます。昨日はお疲れさ  
までした。今年で二年目ですけども、「自  
分たちが抱えていることは小さなことだっ  
たのかな」という気持ちになりました。

19 今回初めて参加させていただきました。  
私は普段水産大学校で教鞭をとって  
います。学校の性格上、学生は当然漁業につ  
いて興味があります。実習などにも付いて  
行くことがあります。やはり生の声で女  
性の目線での話を聞くことは今までありま  
せんでした。

私は一学び者として、あるいは教える立場  
の者としてもなるべく自分の机上の知識と  
現場をすり合わせていきたいと思っていま  
した。

## 私たちは回遊魚

20 おはようございます。変な感想かもし  
れないですけども、パッと見て、今日は  
みんな変身されて漁師の奥さんとは思えな  
いような、「お年いかれてるって言うけ  
ど、やっぱりかっこいいよね」と思います。

私も含めてみんなそうだと思いますが、  
私たちは回遊魚です。止まったら死ぬ  
と思います。ですからいろいろな問題があ  
ると思います。遅くても止まる  
ことなく頑張ってください。私たちも頑張っ  
て追い掛けます。めぐりがうまいと思います。

21 今回初めてシンポジウムに参加させて  
いただきました。基調報告の中で「事務  
局次第で変わる」というお言葉にハッとさ  
せられ、また静岡県の女性連の事務局さん  
のお話にもハッとさせられて、事務局の重  
要性を再認識いたしました。微力ですが  
でも裏方に徹してしっかり事務局を務めて  
いきたいと思えます。

22 私の家は生まれたときから漁師で、漁  
師の妻になり、勤めた所も組合でしたので  
浜のことしか知らないです。昔はカツオ  
船、巻き網、船曳網でイセエビ、サヨリ、エ  
ビなどを獲ったりして暮らしていたのです  
けれども、だんだん獲れなくなり、今は本  
当に細々と近くの沿岸で船曳網をやってい  
ます。

港には、宮城県や九州の大きなカツオ船  
が入ってきて、カツオの生餌としてイワ  
シを買って来ていました。今は、生餌を  
買ってくれるカツオ船は随分減りまして、  
港がだいぶ寂しくなっています。子供の頃  
から港を見続けているので、「これはいつ  
たいていよ」という気持ちであります。

それで、自分の中では魔がさしたとしか  
言いようがないのですが、港の一部を借り  
て食堂をすることを考えました。来月から  
始めることになっている今でも、なぜそ  
ういう気になったのか分からないので、今回  
はそれを解消してもらうために参加させて  
いただきました。

私のあだ名はマグロです。朝から朝まで  
バタバタ動き回っているのです。でも、食堂  
をすることは「なにをわざわざそんな大変  
なことをしにかかったの」と自分に尋ね  
ても尋ねても分からないくらい大変なこ  
とです。

といいますが、当然組合も大変なので  
組合にあまり迷惑を掛けず場所を借り  
て、そこにみんなが来てくれたら少しにぎ  
やかにするのはないかという単純な発想  
で思い付いたので、今では補助金を頂いた  
ことが重みになっています。

一緒にする人も私ぐらいの年代で、私よ  
り若い人は当然生活のために働いていま  
す。私もパートをしているし、一緒にする  
人もみんなパートで働いているのです。で  
すから、取りあえずパートが休みの日だけ  
にしようと思っているのですけれども、日  
にちが迫っているのには足踏みのまま  
です。

でも、昨日からいろいろお話を聞かせて  
いただき「やっぱり始めようと思っ  
てんからやらあかんのか」という気持ちにな  
りました。みなさんありがとございました。

## 多くの女性にシンポジウムを 経験してほしい

23 昨日もいろいろお話しさせていただ  
いて、漁協の事務局、漁連の事務局、女性連  
の事務局、県なりに厳しい意見をたくさん  
頂きましたが、反論したい部分もあるので  
すが、一応みんな頑張ってるって  
認めていただきたいのと、たまにはよい  
しょしてくれろと気持ちよく動きます。女  
性連で料理教室をやると県の職員さんがも  
のすごくたくさん食べに来ますので、ぜひ  
みなさん漁協の事務局さんや県の人をよ  
しよしてそういうことにも招待してあげ  
てください。そうすると一気に距離が縮まり  
ますのでいいと思います。

こういう会や全国の会に出させていただ  
く

くと、女性部の事務局さんに会うことがで  
きます。仕事としてはなく、人生の先輩  
や同士としてこのように出会えるというの  
はすごくいい経験をさせていただいて  
思っています。漁連の職員や漁協の職員  
も女性部さんもそうですけども、「楽し  
かったね」「おいしかったね」だけでもい  
いので、なるべく多くの人にこういう経験を  
してもらいたいと常々思っています。

24 女性部の役員になりました二年目で、  
去年は必死で一年過ぎました。役員に  
なって県外からの小学生の体験漁業の手伝  
いをしたり、イベントに参加したり、とて  
も良い経験をさせていただいています。

うちの嫁は四十になりますけれども、今後  
こういうシンポジウムに積極的に参加させ  
て漁協や漁業に貢献できたらと思っています  
ので、いいお話をあちゃんになろうと思  
います。

## 予算がない、 あってもうまく使えない

25 私は東京湾の入口にある横須賀市東部  
漁協から来ました。ここはノリ養殖をやっ  
ていますので、六人でノリの佃煮を作っ  
ております。

私が今一番困っているのは組合との関係  
です。例えばシーサイドマロンというイ  
ベントでは、組合は儲けがないからお金を  
出せないと言っているので、六人でノリの佃煮の  
「くら会」というのをつくり、そこで「わ  
かめうどん」を出しているのですが、今度は  
別のイベントでもお金を出せないと聞かれ  
ました。そうなるから、一万五千円の場合代は  
とても払えないのでお断りしたのです。



>> sea

>> people

>> life

市役所はいろいろなイベントでやってくれと言いますが、儲けにならないからと組合に切られてしまうのです。本日に今組合との関係でもすごく悩んでいます。

26 そのことでは、私も指導部の部長にお話をしたので、組合のことは組合に任せているので、わかれわかれが口を挟むことではないだろうと、その一言で終わってしまいました。私は一年契約でやっておりますのでガンガン強気で言ってもいいのですが、女性部の立場が悪くなるとは申し訳ないという感じがしたんです。

県漁連で女性部の事務局をやっている以上、私の目が黒いうちは変なふうにならないように頑張らなければいけないと今あらためて思いましたので、みなさまのお知恵やご協力を頂けたらありがたいと思います。

27 今日はお金の問題が多く、話題的には現実味があつて楽しいな、でも、どこも一緒だなと感じています。解決の方法は知っているけれども難しいと、それは人とうながつていくときの面倒な道具なのかと、昨日「賢く生きなさい」という言葉が出ましたが、やはりそこなのかなと感じました。

私も「自分は何がしたいのか」という想いの中、ここに来たのですけれども、あ、これなのかな、あれなのかな、と点と点をつなぐ、まだ表現できないのですけれども、そのヒントにはなりました。やはりたくさんの方のお話を聞くことはすごく勉強になります。

先ほどの助成金もそうですけれども、宮城県でもいろいろ問題があるようです。私はまだ下のほうなので報告を受けるだけですけれども、個人的には助成金がもらえるのであれば何かに使つべきだと思つています。私たちのグループは、もらえるものはもらうけれども使つるのは遠慮しながら、「何かしなければやらないよ」と言われれば「ちょっとだけ何かしたことじゃないか。でも次もやっぱり欲しいよね」という感じで、三年後にはこのぐらいしようとか、そういう具体的なものがないのです。

お金の使い方とか人の使い方を教えてもらい、自分も伝えられるようになって次のシンポジウムに参加したいと思えます。ありがとつてごさいました。

28 私たち男性は「七ヶ浜」と一つにまとまっています。女性部は七つに分かれたままです。ですから、震災直後に私の親分が

何かやれというところで予算を下ろしてくれました。もちろん女性部にも下ろしました。何かしたい。お金はあるけど、さて何をしようということ。震災後続いてきた状況です。次の年の予算獲得ではないですけれども、取りあえず予算を消化するように使わせる。でも何もできないわけです。それがかなりジレンマがあつて、事務局のほうでも、もつと何かできないの、ということになるわけです。

昨日から聞いていると元気なお姉さま方に触発されました。法人化というのはいいことだと思えます。実は、震災で流れていまして、私も妻とそれを考えていました。今、ノリ養殖の箱を町のデザインで作っているのです。それをわれわれ組合員も使っています。そうすると、いつの間にか町全体で一つの商品がブランドになって全国に散らばっているんだな、と今感じました。私が個人で売っていますので中身は私の名前ですけれども、みんな同じ箱で売っているからです。みなさま方も個人でやっていらつしゃいますが、地域活性ということであれば、何か一つ浜の名前、町の名前、県の名前で押し出す商品なども一緒に販売していただければ、もしかすると組

合も町も協力しやすい部分が出てくるのではないかと、別のほうから見るとそのような気がします。

学生たちも何かできることを探しています

学生1 私は大学二年生ですが、同じ年の人よりもよく魚を食べます。身近な人は釣りの好きな人が多いですし、私自身も朝から市場に足を運んで魚を買ひ、そこで働いている女性の方と色々な話をして家に帰り魚をさばいて食べるのです。私自身魚が大好きですので、みなさんがもつと魚を食する人を増やしたいということ。魚を中心に仕事をしていることは、私がそうしたいと思つていることなので、こうしているいろいろな話をたくさん聞くことができ、すごく幸せです。将来のことはまだぼやとしているので、私も女性としてもっと前に出てどんどんパワーをつけてみなさんと同じように頑張りたいと思えます。頑張りますよー！

学生2 昨日から引き続きすごく刺激的な話を聞かせていただき、本当にありがとございます。最初に参加したのは、ここに参加



したら全国のうまい魚が食えるんじゃないか、つまり魚を売っているお店を知ることができないんじゃないか、そういう下心があり軽い気持ちで参加したのですけれども、参加してみると本当に全力で取り組んでいる方がたくさんいて、自分ももっと頑張らなければという気持ちになりました。将来どのような形で関われるか分からないですけども、この会に参加したことが自分の将来につながるというふうにもいろいろなことに取り組んでいきたいと思えます。またよろしくお願ひします。ありがとうございます。

**学生3** 自分の卒業研究が「民宿」です。昨日はすごくためになる話をたくさん聞いたのですけれども、「止まったら死ぬ」というマグロみたいな性格の方がたくさんいらっしゃったのですが、そういうものも人生の中ですごく重要なことだと身に染みて分かりました。本当にためになりました。ありがとうございます。

**学生4** 僕は地域の人たちと学生組織との体制を考えるようなことをやっているのですが、学生組織の持続の問題がすごく見えてきたのです。四年間活動したら次に行かなければならないし、その年その年でモチベーションの違う学生も出てくる。そういうことで悩んでいるところですけども、僕の場合は町内会の人たちと関わりを持っているので、みなさんのお話を聞いてそういう人たちと学生の組織について一緒に考えるようなことができればいいのかなと思います。

もう一つは食です。実際に漁協や漁業者さんは骨無し魚を作っていますけれども、僕的にはそれは違つと思つたのです。魚離れをなくすために食べやすいものを作っ

て魚食文化の子供を増やすことはすごく大事だと思つたのですが、最終的にはやはり地元魚の調理から入つて、「魚にはちゃんと骨があるんだよ」「元はこういう形をしていて、切り身が泳いでいるんじゃないよ」という魚に対する知識や、この魚が泳いでいる海はどういう場所ということから「じゃあ海ってどういうものだろう」という知識につなげて、最終的に海に対する知識が深まっていけばいいのかなと感じています。

**学生5** 昨日はすてきな話をありがとうございます。学部生時代に三重にちよくちよく行き海女さんの調査をさせていただきました。インタビューをする中で海女さんから仕事がつつすぎるので自分の娘や孫に海女を継がせたくないということと内面の話を聞かせていただいたのですが、女性部だけでなく「実は」という話があると思つたのです。それを聞かせていただいて、学生で時間があるので自分が情報発信源になれたらいいなとすごく思いましたので、今後もしるいろいろ話を聞かせていただきます。お願いします。

**学生6** 昨日・今日と刺激的な貴重な話をありがとうございます。今回初めてシンポジウムに参加させていただきましたが、現状をどうにかしたい、新しいことをしたいという前向きな方たちばかりで、何も考えずに来てしまった自分が恥ずかしいです。まだ学生でみなさんと真正面から話し合えるほどの実績はないですけども、これから仕事などをしていく上で経験や実績を積み、みなさん方とまともに話ができる力をつけることができたらと思つています。

**学生7** 僕は意志が弱いほうなのでやろうと思つてあまり続かない面があるのですが、みなさんは挑戦し続ける意志が固くて、この場に参加して逆に元気を分けてもらった次第です。

これから水産を担っていく若者として言わせていただきますと、水産を盛り上げたいと思つているので、いろいろな話を聞かせていただきたくさん吸収して、僕らがいい年になったときには今よりも良くなっているようにしたいと思つています。いろいろお話を聞かせてください。

**学生8** 二日間を振り返つてみて湧き出てきた感想は、「これはありがたい話だな」というのが率直な感想です。なぜありがたいと感じたかという点、僕は暇ができるという点、僕は漁村に足を運ぶことを常に心掛けています。とある沿岸にお邪魔したのです。市場に行きたかったので朝市に行つてみたのです。インターネットには活力があると、歩いたらおばちゃんたちに声を掛けられてしょうがないと、旦那さんが獲つた魚をものすごく売ってくるを書いてあったのでそれも楽しみで行つたのですけれども、ふたを開けてみたらとても残念なことに声を掛けられることは無く、魚も無く、ただ通路を歩いて帰ってきた次第です。

これが水産業の実際の現状なのかと、僕がこういう業界

で貢献したいと思つても実際に働いている人たちがもう頑張れないと思つていたら何もできないのではないかと思つていましたが、今こうして頑張っているみなさんにお会いできて思つたことは、僕たちが活躍する場を、機会を、余地を与えてくださったという、これは本当にありがたいことだと思つきました。あと二年で僕は社会人になりますので、みなさんあと二年頑張ってください。ありがとうございます。

**学生9** 僕の学科は環境問題や海の実態調査、養殖業の改善などを目指す学科です





>> sea

>> people

>> life

が、今回は技術や経営の話を書くことができませんでした。夏休みには漁師さんに同行させていただきました。ただ漁業の現状を知ることができませんでした。また問題点もかなり上がってきたので、漁師さんが漁を続けられるような職に就きたいと思っています。ありがとうございます。ございました。

**学生10** 私は静岡県出身で、今日も浜松から来ました。

私は、昔から父と一緒に釣りに行ったり浜名湖で泳いだりしていたのですが、海が近くにある環境で育ってきましたので、小さい頃から自分が釣ったアジとかサバを親と一緒にさばいて料理して食べるという日常がありました。ですから、水産学部に入ったらたくさんおいしい魚が食べられると思ったのと、みんなと違うことをしたいと思っていたので水産学部に入りました。

一年の頃は右も左も分からなかったのですが、二年になって大学生でやれることは今しかないと思います。副島先生のお供をして下関の漁師のお祭りに参加したりいろいろな漁協に行ったりしているのですが、そこで思ったことは、おいしい魚があつて、みんないい人でいい活動をしているのですけれども、閉鎖的な感じがしたのです。だ

から、学生の立場で何か外に発信できることがあればいいなとすごく感じた二日間でした。ポフンティアとか学生のパワーが欲しいと言われればいつでもどこへでも飛んで行きますので、これからもよろしくお願ひいたします。ありがとうございます。

**学生11** 関先生に「夏休み、おいしいもん食べたい?」と言われて軽い気持ちで参加したのですが、いざ来てみれば、思った以上に本気のシンポジウムでした。

みなさんは地区ごとにいろいろな活動をされていて、うまくいっているように見えてもその裏でいろいろあるような話を聞いて「すげえな」と思って頭の中が真っ白で今しゃべっているのですけれども、漁連などの話を聞いて「そついう所に入っているんな手伝いとかしてみてえな」と思いました。「やっぱりだまされたのかな」みたいな感じもありますけれども、できればその方向に行ってみたいと思ったので、よろしくお願ひします。

**学生12** 今日の話聞いて思ったことは、お金の話が多かったので印象に残ったのかもしれないですけれども、法人化しないと安くて働かされるといふのを知らなかったのですごくびっくりしました。その辺は

どうなっているのですか。

**9** やりだした以上はやらなければ仕方がないです。

**学生12** 時給二百円とか三百円という話が出ていたので「そんなの絶対やりたくないよ」と思っていたのです。

**9** 大学生のときは夏休みがたくさんあるのでほとんど現地に行ってみることで、そつしない現状は解りません。

### 事務局も悩みながら進んでいます

**29** 私は十年間普及員をしています。四年間農業に行き、今年また水産に戻ってきたのですけれども、その間に浜の女性部が随分無くなっていました。びっくりしました。その方たちに聞きますとやはり高齢化の問題や漁協との折り合いがつかなく活動ができないという話でした。

若い世代の方は、パートの仕事をやっているの、地域の婦人会には入るけれども、漁協の女性部には入りませんという方が非常に多くなってきたようです。あの漁村ではアンケートをとったら「俺の代で漁業は終わりや」という方が九十パーセントということでした。でも、地域に若

い方がいなく高齢者ばかりですと「コミュニティが崩壊します。自警団も組めないの、治安も悪くなります。」

普及員の仕事は浜に出てみなさまのお話を聞いて、それを政策のほうに持っていくことですので、多分ここに来られている大多数の方は自分の地域の普及員の名前を知っていると思います。もし知らない方がいましたら、まず漁協に「うちの地区の担当普及員は誰や」と聞いてつかまえてください。そしてどんどん利用してください。

**30** 私は二十五歳で結婚して漁師の嫁を二十五年ぐらいました。夫は今サラリーマンですけれども、私は海女を二十年ぐらい続けています。潜っていて一番思っていることは、毎年どんどん放流はするけれども、本当にアワビがおらんくなつたな、ということ。獲れるアワビは確かに放流したものです。でも、私が海女漁を覚えた頃は十メートル近く潜ると探さなくてもアワビがいたのです。一日十キロとか平気で獲っていましたけれども、今は一キロのアワビを獲るのにフーフー言っていて、「そんなん狙わんとサザエでいこうか」とか言いながらしています。

うちの女性部はアフメという海藻で作るソウルフード、アラメ巻きというのをずっ



と作っていました。助成金をもらって商品化した人もいます。ゆでだこもやっています。生産が安定しないので商品化が難しく、注文されても、今回無いんや、と言ったのもつらくてだんだんやる気もなくなってきます。そういうのを見ていると何とかならないかなと思うのですが、今回シンポジウムに初めて参加させていただいて、あちこちの浜で元気なおばちゃんがたくさんいるので、「うちでもちよっとでもエネルギーを伝えたいな」という気持ちになりました。これからぜひ参加させて

31 いただきたいと思えます。女性部連合会の事務局をしています。事務局さんの話を聞いていて思い出したことを話します。ひよんなことから事務局を任されて、当時は女性が何かを担当することはなかったのが会議に出るのも、「何のために行くの」と嫌みを言われ、青年部や漁師さんたちはキャバクラの領収書を持ってきても通るのに、何でこんな会議一つで私はごちゃごちゃ言われるんだろう、嫌だな、と思いつつやっています。

私は水産を勉強したわけではなく何も

知らなかったわけではなく何もいろいろな勉強したいと思っても機会を与えてもらえず、きれいな事のように男女共同参画を計画に入れてるので行政から何かしなさいと言われるのですけれども、県もこの女社会に本気で入ろうとしているように見えないし、全漁連も男女共同参画してくださいと紙を送ってくるだけで、こんな事、この頭の固い組合長たちに私が言えるわけじゃないやん、と思って本当にみんな嫌いで、今は違いますけれども、昔は何も信じられないと思っていたのです。

みんなの役にも立ってないし、こんなことしていいのかな、私、思っていたのですけれども、ある時、漁師さんから、漁連の中に話

せる奴がいて嬉しいと言われて、すごく気持ちが悪くなって楽しく仕事ができるようになったのです。

みなさんのお話を聞いてみなさんもう思っていることを知りました。みなさんの周りに気負いすぎる事務局さんがいたら優しい声を掛けてあげてください。お願いします。

32 全国漁協女性部連絡協議会の事務局を担当しております。みなさんには大変お世話になっております。

今隣から何となく批判されてごまかしたのですけれども、私はこの会に鹿児島から参加させていただき、みなさんお話しも上手で仕事でも一歩も二歩も成長されて、ふと自分を振り返ってみると、年だけは毎年きちんと取っているのですけれども、なんてポイントな事務局なんだろうと感じる昨今です。

全国の事務局といっても県漁連さん等の情報は入ってくるのですが、こういう加工をやっていますよ、こういう食堂をやっていますよという話はここで聞いて、すごく重要な情報が得られてみなさんには大変感謝しております。

33 全国の動きとしては、高齢化、部員の減少に伴ってみなさんの次の世代の方々のネットワークをつくるということや、水産振興会さんにご協力いただいでフレッシュユミズ部会を立ち上げる準備をしております。すべてどうこうという話ではないと思いますが、広い心と長い目で見守っていただければ大変ありがたいと思います。よろしくお願いします。

33 初めてこのシンポジウムに参加させていただきましたが、本当に中身の濃い話が

何えてうれしく思っておりますし、魚離れの世の中になりつつある中で魚が好きな学生さんがいまして、水産業もまだまだ大丈夫ではないかと思えるシンポジウムで、本当に心に感じました。

事務局さんや普及員さんのこともいろいろ出ましたけれども、どこも一緒だと思いましたが。私たちはいろいろありまして県の女性連には参加しておりません。でも、単協の事務局はじめ、組合長、県の普及員さんもよく地元足を運んで私たちの意見を聞いてくれます。「また無理言うけどお願いしますね」と言つと「構わんですよ、なんぼでも無理言うてください」と言ってくれるので本当にありがたいです。

おそろしくここに参加されている水産課の方や事務局の方はやる気のある方だと思います。ただ、こういう会に出たことない人にどれだけ声を届けられるか、ということが大切だと思います。

### 地元水産物をPRする

34 私は、関先生に誘われまして本当に軽い気持ちで参加させていただきました。昨日と今日の中身の濃い会議で軽い気持ちで来たことを恥ずかしく思っております。

私は三重県の離島ですが、若い子たちが昨日食べていただいたサメとアカモクの加工を立ち上げています。女の子は全員三十代です。若い子が一生懸命頑張っているのを私は後ろからサメガールや、とひたすらアピールさせていただいています。若い子たちがグロテスクなサメをパッとさばるので見学に来ている方たちはびっくりされるのです。





>> sea

>> people

>> life

私は都会から離島に嫁いだわけですが、初めて魚を炊いた時にうろこなどを取らずに炊いたので、この嫁は何食べさせるか分からへんど、と評判になりました。スーパーでは切り身しか買ったことがないので、魚にうろこがあるのを知らなかったのです。近くの漁師さんがカツオを一本で持ってきてくれるのですが、さばき方も分かりませんでした。

嫁いでは、実家にイセエビや魚を持って行くのですけれども、都会にはまな板やさばく包丁が無いのです。そういうのを持っていても、できないんやなということを実感しました。

でも、従妹や親が、今までのハマチは臭かったやけど、本当は臭くないんやなと言うので、本当に魚のおいしさをぜひアピールせないかなと思って、今は魚っておいしいんやよ、臭ないんやよということだけで一生懸命アピールしています。

35 私の組合では、今事業者の方が二人来られているのですけれども、貝殻にしか付かないノリを養殖しています。

これも川でやるのですが、アサリの育成と保護もやっています。国産のアサリに稚貝を産ませて保護して出荷しているの

です。これは手掘りで、普通は大・中・小と分けますが、私たちは小と中に戻して大と特大しか出荷しません。特大は九州に出ています。ですから、九州の熊本産になっているのです。

近くに川がある漁協の人は川を利用されたいらいいと思うのです。海がしけても干潮のときはアサリが掘れます。おかげさまで今年には掘る人の人件費は八百円払うことができました。行政の方の水産事務所や試験場、市の水産課などに協力してもらっています。

想いが強ければ、年齢は関係ない

36 私は大分のときからずっと来ています。その時はまだ女性部が無かったので県の漁村生活改善士という県知事の認定者として参加させていただき、みなさんの話を聞いて「あ、女性部をつくらにゃいけん」ということで平成十二年に立ち上げるのができたのですけれども、まだまだ少ない人数でやっています。

ここに来る新幹線の中で「最近セブンイレブンとかでご飯を食べる若い子が多いよね」「昼食に必ずセブンのおむすびを持ってくる子が多いよね」という話をしていたの

ですが、地域で獲れたもので食事を作ることは一番大切ではないかと感じています。

37 結婚して、夫の親を看取った時、「ときちゃんね、もう沖へ出んのんじゃったら女性部の部長をしてよ」と言われたのです。現在も部長をやっているのですけれども、女性部で何かすることはないだろうかということでも平成二十一年に自分の好きな「海老味噌」を復活させました。

今の課題は、後に付いてきてくれる人がいないのです。それで、ぼけ防止のために二人に声を掛けたら「あなたがどこまでやるか分からんけど、やる限りあなたに付いていくよ」というおばちゃんがいたので、その人は今七十八か七十九ぐらいですけど、でも、一時間六百円で頑張っているのです。

ですから、私の仕事は女性部の部長もしながら「海老味噌」の活動、そして、今、頭の中に「他にもすることがあるんじゃないかな」というのがあるのです。何年続かなかかりませんが、つえをついて歩くようになるかもしれないが、それでも頑張っていると思います。

9 私は今年、八十歳になりました。年は関係ないです。想いが強かったらできま

す。年を重ねた私たちの経験を若い人たちに伝えながら、また若い人たちのエネルギーを吸収しながらやっています。

渥美 東京水産振興会の渥美です。昨日から長い時間お付き合いいただきましてありがとうございます。私どもが漁村の女性の方々とお付き合いを始めたのは、うみ・ひと・くらしのみなさんと一緒にした十年ぐらい前でしょうか。毎年このようなシンポジウムを行って私どもも一緒にいろいろな地方を回らせていただいています。その度に発見とかパワーを頂いている次第です。

残念ながら私どもは小さな財団法人で、補助金も全く関係ない所ですが、逆に言うと全くしがらみがなく、好き勝手にうみ・ひと・くらしのみなさんといういる地域の方々に貢献ができたということ、昨年は大分と五島の地域でみなさんが集まって話し合いをしたり、みなさんが作ったものを東京で販売する機会をつくったり、ある意味好き勝手に協力をさせていただきたいと思っています。われわれでできることがあれば協力させていただきますので、今後ともよろしくお願いいたします。

松田 同じく東京水産振興会の松田でございます。



今までこれほど組織の中での女性の活躍の話が出てきたことはないので、ぜひうちの組織でも女性が活躍できるようになればいいなと心底思っております。みなさまありがとうございました。

**副島** あらためまして、うみ・ひと・くらしフォーラムの副島です。昨日・今日と本当にたくさんの方に集まっていたいていろいろ自分たちの言葉を発していただき、今回のシンポジウムの目的の一つを達成することができたのではないかと感じています。ありがとうございます。

私なりの感想ですがけれども、今日も何度か「情報発信」という言葉が出てきたと思います。最近海外に向けて日本の状況を情報発信する機会がありました。その時にどこでも「日本ってそうだったんだ」と驚かれたのですが、みなさんは流通の事情やいろいろなことで商品にならない魚にいかにも価値をつけて売っていくかということをやっているんじゃない魚を何とか利用しなければいけないというところでどの国でも今問題になっているのです。

それは、獲ったものを商品にならないから捨てるというのほもったいないという資源管理の意味もありますし、「世界的には食糧難なのにせっかく獲った魚を捨てるのか」というすごく大きな問題もあります。そして、もちろん漁業者の経営問題、「獲ったのに捨てるのは経営にならない」ということとすごく問題になっているのです。

そういう状態をどうしたらいいかといういろいろな人が集まって考えている最中なのです。その中で日本はどうなっているの

と言われて日本はこうだと伝えてきたのですが、その一つがみなさんの活動で、東京水産振興会さんを中心として、全国の漁村の女性グループの数を数えたら少なくとも三百六十四グループが活動していることを把握していますけれども、そのグループの人たちが値段のつかない魚を何とか利用しようとして活動されています。

昨日「女たちは十円にしかならない魚を追っていく」というような話がありましたけれども、みなさんはそういう魚を売っていて、何千万の売上があるグループもあれば年間百万にも満たないグループもありまだけれども、平均するとだいたい三百万くらいとみられています。三百万というのは一般の企業からするとすごく小さな規模ですけれども、単純に計算するとみなさんで十億円の価値を生みだしていることになるのです。

そういうことを言いましたら、「へー、そんなことしてたんか」と驚かれていますし、毎年集まって情報を交換し何らかの形でうみ・ひと・くらしのネットワークをつくるうとしていますが、この動き自体もすごく興味を引かれて「こんなふうに日本はやっていたんだ。知らなかった」と言われました。

みなさんが日々されている活動やネットワークづくりは、外から見ても注目されるようなすごいことで、最先端を走っているんじゃないかと、あらためて分かった次第です。そういう意味での情報発信をこれからも続けていけたらと思っています。

ちなみに、夫がどうのと、そういう話もたくさんあったのですが、昨日・今日と私がかここに来られたのは下関で夫が二人の子

供を見ているからだと思っていて、「家族の協力は業種を超えて関係があることだな」としみじみ思いながら私自身も過ごしていました。ありがとうございます。

**関** もう時間が過ぎました。長時間どうもありがとうございます。

二日目もこれだけたくさんの方に残っていただいて、本当はやりとりもできればと思ったのですけれども、取りあえず全員にしゃべってもらったことを念頭に進めさせていただきました。でも、四十近い事例をこの時間に聞くことができましたので、持っ

て帰っていただけたらと思います。

いつもパワーをもらっているのですけれども、もうただけではなくてお返しをしなければいけないとも思っております。自分でできるか分からないのですが、発信するお手伝いなら少しでもできるかと思っております。これまでもやってきたつもりですけれども、今後自身を入れて頑張っていきたいと思えます。二日間、長時間にわたってどうもありがとうございます。本当にお疲れさまでした。





## 東京水産振興会 紹介

“東京水産振興会”は、東京都築地市場に近接した水産物流通基地である豊海水産埠頭の管理運営を行うために設立された一般財団法人です。また同時に、水産業の振興に貢献するため、水産に関する普及啓発事業および調査研究事業を行っています。

具体的には、講演会の開催、教材用水産ビデオの制作、水産政策や水産物流通、漁村活性化などについての実態調査と研究報告書の発行など、幅広い事業を実施しています。

### ●お問い合わせ

東京水産振興会 振興部（渥美、松田）

〒104-0055 東京都中央区豊海町5番1号

TEL：03-3533-8111 FAX：03-3533-8116

<http://www.suisan-shinkou.or.jp>  
e-mail: [tkyfish@blue.ocn.ne.jp](mailto:tkyfish@blue.ocn.ne.jp)



## うみ・ひと・暮らしフォーラム

“うみ・ひと・暮らしフォーラム”は、漁村研究を志す女性3人が結成したグループです。変革期にある漁村の暮らしを見つめ、これからの漁村の向かうべき方向を見出すために、様々な漁村調査やシンポジウム開催などの活動を通し、情報提供やネットワーク形成など、現場での疑問や問題点の解決のお手伝いをしていきたいと考えています。

### ●うみ・ひと・暮らしフォーラム

関 いずみ（海と暮らし研究所・東海大学海洋学部）

三木 奈都子（国立研究開発法人 水産研究・教育機構 中央水産研究所）

副島 久実（国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産大学校）

<http://blogs.yahoo.co.jp/umihitokurashi>  
e-mail: [umihitokurashi@yahoo.co.jp](mailto:umihitokurashi@yahoo.co.jp)